

平成21年11月27日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成21年8月11日厚生労働省発食安0811第6号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくメタラキシル及びメフェノキサムに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

メタラキシル及びメフェノキサム^{注)}

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく新規の農薬登録申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品中のポジティブリスト制度導入時に新たに設定された基準値（いわゆる暫定基準）の見直しを含め、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告をとりまとめるものである。

1. 品目名：メタラキシル[Metalaxyl (ISO)]及びメタラキシルM[Metalaxyl-M (ISO)]

注) 「メフェノキサム」は、メタラキシルMの別名である。本報告書中ではISO名に従って「メタラキシルM」で統一している。

メタラキシルは、D体とL体の2つの鏡像異性体を1:1の割合で含有するラセミ体とされる。2つの鏡像異性体のうち、殺菌活性を示すのは主にD体とされ、D体がメタラキシルMと称される。

2. 用途：殺菌剤

メタラキシル及びメタラキシルMは 酸アミド系殺菌剤であり、菌糸伸長及び胞子形成を阻害することで、特に卵菌綱ツユカビ目の糸状菌に対して防除効果を有するとされる。

3. 化学名：

① メタラキシル

methyl *N*-(methoxyacetyl)-*N*-(2,6-xylyl)-DL-alaninate (IUPAC)

methyl (*RS*)-2-{[(2,6-dimethylphenyl) methoxyacetyl] amino} propionate (IUPAC)

methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(methoxyacetyl)-DL-alaninate (CAS)

② メタラキシル M

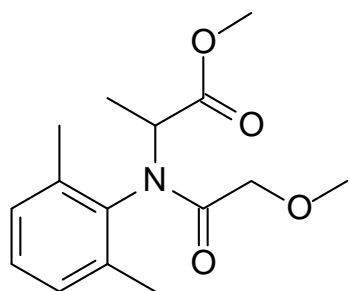
methyl *N*-(methoxyacetyl)-*N*-(2,6-xylyl)-D-alaninate (IUPAC)

methyl (*R*)-2-{[(2,6-dimethylphenyl) methoxyacetyl] amino} propionate (IUPAC)

methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(methoxyacetyl)-D-alaninate (CAS)

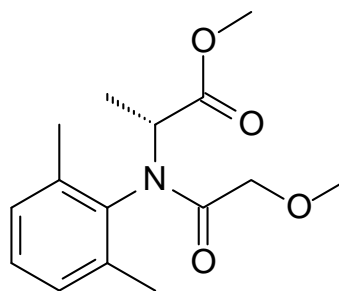
4. 構造式及び物性

①メタラキシル



分子式 C₁₅H₂₁N₁O₄
分子量 279.34
水溶解度 8.4g/L (22°C)
分配係数 log₁₀Pow=1.75 (25°C)

②メタラキシルM



分子式 C₁₅H₂₁N₁O₄
分子量 279.34
水溶解度 26g/L (25°C)
分配係数 log₁₀Pow=1.71 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

今般、農薬取締法に基づき、メタラキシルMの農薬登録申請（ピーマン等）がなされた。**製剤名**・**農作物**となっているものが、メタラキシルMに係る申請であることを示す。

(1) 国内での使用方法

① 25.0%メタラキシル水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルを含む農薬の総使用回数
キャベツ はくさい たまねぎ	苗立枯病 (ピシウム菌)	種子重量の 0.3~0.5%	は種前	1回	種子粉衣	4回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 3回以内)
ほうれんそう						2回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 1回以内)
だいこん						2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌混和は 1回以内)
にんじん						1回
だいず		種子重量の 0.3%				4回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 3回以内)
えだまめ						1回
野菜類 (豆類(未成熟) を除く) 飼料作物	ピシウム菌 による病害 (苗立枯病等)	種子重量の 0.3~0.5%	は種前	1回	種子処理機 による 種子粉衣	1回
未成熟 とうもろこし		種子重量の 0.5%				1回
豆類(未成熟) 豆類(種実)		種子重量の 0.3%				

② 2.0%メタキラシル粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタキラシルを含む農薬の総使用回数
稲	黄化萎縮病	6kg/10a	収穫90日前まで	2回以内	散布	4回以内 (種もみ粉衣は1回以内、移植前の土壌混和は1回以内、育苗箱への灌注は1回以内、本田では2回以内)
くわい	茎腐病		収穫21日前まで		湛水散布	
みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	10~20kg/10a	みょうが(茎葉) 収穫30日前まで、但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで	3回以内	土壌表面散布	2回以内
みょうが(花穂)			収穫30日前まで			
しょうが			収穫21日前まで	定植前 作条土壌混和 又は生育期 土壌表面散布	3回以内	
葉しょうが			収穫21日前まで			
ホップ	べと病	10~20g/株	株ごしらえ時~選芽期	1回	株元土壌混和 又は 土壌表面散布	1回
たらのき	立枯疫病	20kg/10a	収穫終了後(苗の場合は植付後)~梅雨期	2回以内	土壌表面散布	2回以内
いちご	疫病	10kg/10a	定植時	1回	作条土壌混和	5回以内 (種子粉衣は1回以内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混和は1回以内)
	根腐病					
5~10kg/10a			培土時		植溝土壌混和	
こんにゃく	根腐病	5kg/10a	培土時			
ピーマン	疫病	2~3g/株	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
パセリ		10~20kg/10a	収穫21日前まで			

② 2.0%メタキラシル粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタキラシルを含む農薬の総使用回数
せり	葉腐病	6kg/10a	収穫 21 日前まで	1 回	散布	2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 1 回以内)
こまつな	白さび病	10kg/10a	は種前 但し、収穫 21 日前まで		全面土壌混和	2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 土壌混和は 1 回以内)
みずな			は種時又は 定植時			
ほうれんそう	べと病	9kg/10a	は種時		2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種時は 1 回以内)	
チンゲンサイ	白さび病	9kg/10a	は種時又は 定植時	1 回	全面土壌混和	2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 1 回以内)
かぶ		10kg/10a	は種時			2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 土壌混和は 1 回以内)
タアサイ		6kg/10a	定植時			2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 土壌混和は 1 回以内)
だいこん		9kg/10a	は種時		作条土壌混和	2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 土壌混和は 1 回以内)
オクラ	疫病	10kg/10a	収穫前日 まで	3 回以内	株元散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)

③ 10%メタラキシル・65% T P N水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	メタラキシルを 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	べと病 炭疽病 うどんこ病 褐斑病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
かぼちゃ	べと病			収穫 7 日前 まで			
メロン	つる枯病 べと病 うどんこ病			収穫 3 日前 まで			
すいか	つる枯病 炭疽病 褐色腐敗病			収穫 7 日前 まで	4 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 4 回以内)
トマト	疫病			収穫前日 まで			
なす	褐色腐敗病			500～750 倍	100～400 L/10a		収穫前日 まで
はくさい	白さび病 ビシム腐敗病 べと病	収穫 7 日前 まで	2 回以内				
ばれいしょ	疫 病	500～750 倍	100～400 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	3 回以内	
	夏疫病	750 倍					
たまねぎ	べと病 灰色かび病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)	
ね ぎ	べと病			収穫 14 日前 まで			
らっきょう	白色疫病			3 回以内			

④55%マンゼブ・10%メタラキシル水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルを含む農薬の総使用回数			
ばれいしょ	疫病	500~750倍	—	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内			
たまねぎ	白色疫病						8倍	1.6L/10a	無人ヘリコプターによる散布	
							12倍	2.4L/10a		
はくさい	べと病	1000倍	—	収穫30日前まで	1回	散布	4回以内 (種子粉は1回以内、 は種後は3回以内)			
キャベツ				収穫前日まで	3回以内					
ねぎ										
きゅうり				収穫7日前まで	3回以内					
メロン				花蕾形成前まで、 但し、 収穫21日前まで			3回以内			
ブロッコリー				収穫60日前まで	2回以内		2回以内 (但し開花後1回)			
小粒種ぶどう (露地栽培)				開花前まで	2回以内					
大粒種ぶどう (露地栽培)										
ぶどう (施設栽培)				—	—		—	2回以内	散布	2回以内
パッションフルーツ				疫病	—		—	収穫30日前まで	—	—
らっきょう	白色疫病	500倍	—	開花後(10月)~4月 但し、 収穫30日前まで	3回以内	—	4回以内 (種子粉は1回以内、 は種後は3回以内)			
すいか	疫病	1000倍	—	収穫7日前まで	—	—	—			
みかん	褐色腐敗病			収穫30日前まで				2回以内		
トマト	疫病	750倍	—	収穫前日まで	2回以内	—	5回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は4回以内)			

④55%マンゼブ・10%メタラキシル水和剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルを含む農薬の総使用回数
わさび だいこん	白さび症	500倍	200～400 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (種子粉衣は1 回以内、 は種後は 3回以内)
いちご	疫病	1000倍	50 ml/株 (200～400 L/10a)	育苗期			5回以内 (種子粉衣は1 回以内、 育苗期は 3回以内、 定植時の 土壌混和は 1回以内)
あずき	茎疫病	500倍	100～300 L/10a	収穫30日前 まで			4回以内 (種子粉衣は1 回以内、 は種後は 3回以内)
だいず				収穫45日前 まで			

⑤75.6%塩基性塩化銅・8.0%メタラキシル水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルを含む農薬の総使用回数
みかん	褐色腐敗病	750倍	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ばれいしょ	疫病	400～600倍		収穫前日 まで		3回以内
トマト			4回以内			5回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 4回以内)
ミニトマト						
かぼちゃ	べと病	800倍	収穫14日前まで	3回以内	4回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 3回以内)	
きゅうり			収穫前日まで			
すいか	褐色腐敗病 果実汚斑細菌病	400～600倍	収穫7日前 まで	3回以内	4回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 3回以内)	
メロン	べと病					
たまねぎ	べと病	400～600倍	収穫7日前 まで	3回以内	4回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 3回以内)	
ひろしまな	白さび病	600～800倍				
みつば	べと病	800倍	収穫14日前 まで	1回	散布	2回以内 (種子粉衣は 1回以内、 は種後は 1回以内)
うど	疫病		伏込時 (収穫25日前 まで)			根株 瞬間 浸漬

⑥30.0%ヒドロキシイソキサゾール・4.0%メタラキシル液剤

作物名	適用 病害虫名	希積 倍数	使用 時期	本剤の 総使用 回数	使用方法	メタラキシルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌、 ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の発根 及び活着促進	500～ 1000 倍	は種時 又は 発芽後	1回	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り希釈液 500mLを土壌灌注する。	4回以内 (移植前の 土壌混和は 1回以内、 育苗箱への 灌注は1回以内、 本田では 2回以内)
		1000 倍	は種時		育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り希釈液 1Lを土壌灌注する。	

⑦4.0%ヒドロキシイソキサゾール・0.5%メタラキシル粉剤

作物名	適用病害虫名 使用目的	使用量	使用 時期	本剤のみ を使用す る場合の 使用回数	使用方法	メタラキシル を含む 農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌)	置床 1m ² 当り 50g	緑化 始期	1回	置床表土に 均一に混和	4回以内 (但し、 本田期は 2回以内)
	苗立枯病 (ピシウム菌、 フザリウム菌)	育苗箱 (30×60× 3cm、使用 土壌約5L)	は種前		育苗箱土壌に 均一に混和	
	根の生育促進 ムレ苗防止	1箱当り 6～8g				
稲 (湛水直播)	根の生育促進 による 苗立の安定	乾籾重量 の3%			過酸化カルシウム 剤に添加して 種籾に粉衣する	
さとうきび	根腐病	5kg/10a	植付時		植溝土壌混和	1回

⑧1.5%フルトラニル・1.5%メタラキシル粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	根腐病	5kg/10a	培土時 (但し収穫 30日前まで)	1回	株元散布 (散布後土寄せ)	1回
		5~10kg/10a	植付時		植溝土壌混和	
		20kg/10a			全面土壌混和	
	白絹病	5kg/10a	培土時 (但し収穫 30日前まで)		株元散布 (散布後土寄せ)	
		20kg/10a	植付時		全面土壌混和	

⑨1.0%メタラキシルM粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルM及びメタラキシルを含む農薬の総使用回数
ピーマン	疫病	3g/株	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は3回以内)
みょうが	根茎腐敗病	20kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	土壌表面散布	2回以内

⑩3.3%メタラキシルM・32%TPN水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシルM及びメタラキシルを含む農薬の総使用回数	
ばれいしょ	疫病	800~1000倍	100~400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
トマト				収穫前日まで	4回以内		5回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は4回以内)	
きゅうり				収穫3日前まで	3回以内		4回以内	4回以内
メロン	800倍	3回以内						
たまねぎ	べと病	800~1000倍		収穫7日前まで	2回以内			4回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は3回以内)
ねぎ		800倍		収穫14日前まで				
はくさい			800倍	収穫7日前まで	3回以内			
なす	褐色腐敗病	800倍	収穫前日まで					

⑪ 64%マンゼブ・3.8%メタラキシルM水和剤

作物名	適用 病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	メタラキシルM 及び メタラキシルを 含む農薬の 総使用回数
ばれいしょ	疫 病	500～ 1000 倍	150～300 L/10 a	収穫 30 日 前まで	1 回	散布	3 回以内
ト マ ト		1000 倍		収穫前日 まで	2 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
きゅうり	べと病			収穫前日 まで	3 回以内		4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
メ ロ ン				収穫 7 日 前まで	3 回以内		
はくさい				収穫 30 日 前まで	1 回		
たまねぎ		収穫 7 日 前まで		3 回以内			

⑫ 2.0%アズキシストロビン・1.0%メタラキシルM粒剤

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	メタラキシル 及び メタラキシルM を含む農薬の 総使用回数
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	18kg/10a	みょうが (花穂) の収穫 30 日前ま で、但し、花穂を 収穫しない場合に あつては開花期終 了まで	2 回以内	土壌表面 散 布	2 回以内
みょうが (花穂)			収穫 30 日 前まで	3 回以内	定植前作 条土壌混 和又は生 育期土壌 表面散布	3 回以内
しょうが						

(2) 海外での使用方法

① 米国での使用方法

作物名	1回当り 使用量	本剤の 使用回数	栽培期間中 の総使用量	使用時期	使用方法
小豆類 (インゲン、あずき、レンズ)、エンドウ、その他の豆類 (リマ、スナップ他)	0.51b. a. i. /A	1回	0.51b. a. i. /A	栽培前または播種時	全面土壌散布 または帯状土壌散布
ばれいしょ	0.1881b. a. i. /A	2回	0.5881b. a. i. /A	種いも播種時	畝間処理
	0.401b. a. i. /A			塊茎形成初期	茎葉処理
かんしょ やまいも	1.01b. a. i. /A	1回	1.01b. a. i. /A	栽培前または種いも播種時	全面土壌散布 または帯状土壌散布
だいこん	1.01b. a. i. /A	1回	1.01b. a. i. /A	栽培前または播種時	全面土壌散布 または帯状土壌散布
トマト	1.01b. a. i. /A	1回	2.01b. a. i. /A	定植時	全面土壌散布 または帯状土壌散布
	0.51b. a. i. /A	2回		生育期 (定植4~6週間後、収穫4週間前まで)	土壌灌注
未成熟大豆	0.51b. a. i. /A	1回	0.51b. a. i. /A	栽培前または播種時	全面土壌散布 または帯状土壌散布
ジンセン (高麗人参)	151b. a. i. /A	4回	6.01b. a. i. /A	収穫9日前まで	土壌表面処理 (粒剤)
核果類 (アンズ、おうとう、ネク タリン、もも、うめ、 すもも、プルーン)	2.01b. a. i. /A	3回	6.01b. a. i. /A	苗木は定植 後2週間以 降、成木は春 期生育前	全面土壌散布 または帯状土壌 散布
いちご	0.51b. a. i. /A	3回	1.51b. a. i. /A	収穫当日まで	帯状土壌散布 または土壌灌注
ブルーベリー	1.81b. a. i. /A	2回	3.61b. a. i. /A	収穫当日まで	帯状土壌散布 または全面土壌 散布
ナッツ類 (アーモンド、クルミ)	2.01b. a. i. /A	3回	6.01b. a. i. /A	苗木は定植 後2週間以 降、成木は春 期生育前	株元に全面土壌 散布または帯状 土壌散布

② EUでの使用方法

作物名	1回当り 使用量	本剤の 使用 回数	栽培期間中 の総使用量	使用時期	使用方法
にんにく(たまねぎ の使用方法を適用)	0.15kg a. i. /ha	3回	0.45kg a. i. /ha	発病初期 PHI 14~28日	茎葉散布
レモン、オレンジ、 マンダリン (Citrus fruit)	1g a. i. /m ²	2回	2g a. i. /m ²	生育始期 PHI 15~30日	土壌処理 (株元散布)
	1g a. i. /樹	2回	2g a. i. /樹	生育始期 PHI 15~30日	土壌処理 (株元点滴かん水)
	3.5g a. i. /樹	2回	7g a. i. /樹	PHI 30日	茎葉散布
	0.35g a. i. /樹	2回	0.7g a. i. /樹	PHI 15日	茎葉散布
りんご、なし (pome fruit)	1g a. i. /m ²	2回	2g a. i. /m ²	秋期又は 3月の生育初期 PHI 15~28日	土壌処理 (株元散布)
	1g a. i. /樹	2回	2g a. i. /樹	秋期又は3月 PHI 15~28日	土壌処理 (株元点滴かん水)

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

メタラキシル及びメタラキシルM

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、多孔性けいそう土カラムで精製した後、グラファイトカーボンミニカラム及びフロリジルミニカラムで精製し、ガスクロマトグラフ (NPD) を用いて定量する。D-鏡像異性体のメタラキシルMとラセミ体のメタラキシルは、同じ分析法で実施されており、クロマトグラム上のピークは同一で、メタラキシルMとメタラキシルは 区別されない。

定量限界：メタラキシル及びメタラキシルM 0.005~0.1ppm

(2) 作物残留試験結果

① 水稲

水稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2例) において、メタラキシル 25%水和剤の 500ppm 溶液に種子浸漬後、メタラキシル 2% 粒剤を 1回、育苗箱処理 (80g/箱) し

たところ、散布後 134、142 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 1-1)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.01 ppm、<0.01 ppm

水稻(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 25%水和剤の 500ppm 溶液に種子浸漬後、メタラキシル 2% 粒剤を 1 回、育苗箱処理(80g/箱)したところ、散布後 134、142 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.04 ppm、<0.04 ppm

水稻(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 25%水和剤の 500ppm 溶液に種子浸漬後、メタラキシル 2% 粒剤を 1 回、育苗箱処理(80g/箱)し、メタラキシル 2%粒剤を計 2 回本田湛水散布(12.5kg/10a)したところ、散布後 93 日、70 日の最大残留量^{注1)} はそれぞれ以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 1-2)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.01 ppm、0.02 ppm

水稻(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 25%水和剤の 500ppm 溶液に種子浸漬後、メタラキシル 2% 粒剤を 1 回、育苗箱処理(80g/箱)し、メタラキシル 2%粒剤を計 2 回本田湛水散布(12.5kg/10a)したところ、散布後 93、70 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.01 ppm、0.22 ppm

水稻(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、育苗箱当りメタラキシル 0.5%粉剤を 1 回散布(8g/箱)、メタラキシル 4%液剤の 500 倍希釈液を計 2 回湛水散布(500mL/箱)した稲苗を本田に移植し、メタラキシル 2%粒剤を計 2 回散布(6kg/10a)したところ、散布後 45~89 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 1-3)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.06 ppm、0.028 ppm

水稻(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、育苗箱当りメタラキシル 0.5%粉剤を 1 回散布(8g/箱)、メタラキシル 4%液剤の 500 倍希釈液を計 2 回湛水散布(500mL/箱)した稲苗を本田に移植し、2%粒剤を計 2 回散布(6kg/10a)したところ、散布後 45~89 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.2 ppm、0.1 ppm

② だいず

だいず（えだまめ）を用いた作物残留試験（2例）において、種子重量の0.5%相当のメタラキシル15%水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後108日及び100日のえだまめにおける最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 2-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.005 ppm、<0.005 ppm

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、種子重量の0.5%相当のメタラキシル15%水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後143日及び130日の乾燥子実における最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 2-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.005 ppm、<0.005 ppm

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の500倍希釈液を計3回散布（200、100L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 2-3）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.005 ppm、<0.005 ppm

③ あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の500倍希釈液を計3回散布（120、200L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 3）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.014 ppm、0.028 ppm

④ ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（100、500L/10a）したところ、散布後6日、14日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 4-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.05 ppm、0.06 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計6回散布（100、500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 4-2）

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.11 ppm、0.16 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 4.2%水和剤の413倍希釈液（2.42g/L）を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 4-3）

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.01 ppm、0.01 ppm

⑤こんにゃくいも

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル1.5%粉剤を植付時に1回作条処理（10、20kg/10a）したところ、散布後139日または168日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 5-1）

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.01 ppm、0.02 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル1.5%粉剤を植付時に1回全面土壌混和处理（20kg/10a）したところ、散布後139日、168日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 5-2）

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.01 ppm、0.06 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を植付時に1回全面土壌混和处理（15kg/10a）したところ、散布後149日または158日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 5-3）

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.008 ppm、<0.008 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（3例）において、メタラキシル2%粒剤を植付時に1回植溝処理（5kg/10a）したところ、散布後149日または158日または141日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 5-4）

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.008 ppm、<0.008 ppm、<0.008 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を植付時に植溝処理（10kg/10a）したところ、散布後149日または158日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 5-5）

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.008 ppm、<0.008 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（3例）において、メタラキシル 2% 粒剤を植付時に 1 回植溝処理(5kg/10a) し、培土時に 1 回株元散布(5kg/10a) したところ、散布後 114 日または 133 日または 103 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 5-6）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.008 ppm、<0.008 ppm、<0.008 ppm

こんにゃくいも（球茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2% 粒剤を培土時に土壌表面散布(10kg/10a) したところ、散布後 151~165 日または 99~113 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 5-7）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.05 ppm、<0.05 ppm

⑥さとうきび

さとうきび（茎部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 0.5% 粉剤を植付時に 1 回植溝土壌混和处理（5kg/10a）したところ、散布後 243 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 6）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

⑦だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、種子重量の 0.5% 相当のメタラキシル 25% 水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後 47 日、64 日の根部における最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 7-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.04 ppm、<0.04 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、種子重量の 0.5% 相当のメタラキシル 25% 水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後 47 日、64 日の葉部における最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 7-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.04 ppm、<0.04 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2% 粒剤を播種時に 1 回、作条土壌混和处理（9kg/10a）したところ、処理後 53~67 日、50~64 日の根部における最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙 1-1 7-3）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.03 ppm、0.05 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2% 粒剤を播種時に 1 回、作条土壌混和处理（9kg/10a）したところ、処理後 53~67 日、50~64 日

の葉部における最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。(別紙1-1 7-4)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.04 ppm、0.05 ppm

⑧かぶ

かぶ(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を播種時に1回、全面土壌混和处理(10kg/10a)したところ、処理後85~95日、91~101日の根部における最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 8-1)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.1 ppm、<0.1 ppm

かぶ(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を播種時に1回、全面土壌混和处理(10kg/10a)したところ、処理後85~95日、91~101日の葉部における最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 8-2)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.1 ppm、<0.1 ppm

⑨わさびだいこん

わさびだいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル10%水和剤の500倍希釈液を計3回散布(400、200L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 9)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.02 ppm、0.03 ppm

⑩はくさい

はくさい(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計2回散布(200、500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 10-1)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.20 ppm、0.148 ppm

はくさい(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布(200、500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 10-2)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.071 ppm、0.21 ppm

はくさい(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計6回散布(200、500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大

残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 10-3)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.14 ppm、 0.159 ppm

はくさい(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、種子重量の0.5%相当のメタラキシル25%水和剤を種子に粉衣し、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 10-4)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.020 ppm、 0.088 ppm

はくさい(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシルM3.3%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(220、250~300L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 10-5)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.02 ppm、 0.03 ppm

⑪キャベツ

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、種子重量の0.5%相当のメタラキシル25%水和剤を種子に粉衣したところ、処理後83日、115日の最大残留量^{注1)}は以下の通りであった。(別紙1-1 11-1)

メタラキシル及びメタラキシルM： <0.01 ppm、 <0.01 ppm

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布(200、200~250L/10a)したところ、散布後30日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 11-2)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.02 ppm、 0.06 ppm

⑫こまつな

こまつな(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を播種前に1回、全面土壌混和処理(10kg/10a)したところ、処理後21~35日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 12)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.20 ppm、 0.44 ppm

⑬みずな

みずな(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を播種時に1回、全面土壌混和処理(10kg/10a)したところ、処理後21~31日の最大残

留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙1-1 13)

メタラキシル及びメタラキシルM : 1.02 ppm、0.40 ppm

⑭チンゲンサイ

チンゲンサイ(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を生育期に1回、全面土壌混和処理(9kg/10a)したところ、処理後18~32日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙1-1 14)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.52 ppm、0.16 ppm

⑮ブロッコリー

ブロッコリー(花蕾)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を花蕾形成前に計3回散布(300、100~280L/10a)したところ、散布後21~35日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙1-1 15)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.1 ppm、<0.01 ppm

⑯ひろしまな

ひろしまな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル8%水和剤の600倍希釈液を1回散布(150L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙1-1 16)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.26 ppm、0.25 ppm

⑰タアサイ

タアサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を1回、全面土壌処理(9kg/10a)したところ、処理後21~35日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 17)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.26 ppm、<0.05 ppm

⑱ たまねぎ

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計5回散布(100、200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 18-1)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.01 ppm、0.028 ppm

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、種子重量の0.5%相当のメ

タラキシル 25%水和剤を1回、種子に粉衣して播種したところ、播種後166、245日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 18-2)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、種子重量の0.5%相当のメタラキシル 25%水和剤を種子に粉衣して播種し、播種後にメタラキシル 8%水和剤の400倍希釈液を計3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 18-3)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 10%水和剤の8倍希釈液を無人ヘリコプターにより計3回散布(1.5~1.8L/10a)したところ、散布後7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 18-4)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシルM 3.3%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(200、250L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 18-5)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

⑱ ねぎ

ねぎ(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシルM 3.3%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(300、200L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 19)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.02 ppm、0.03 ppm

⑳ らっきょう

らっきょう(鱗茎)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 10%水和剤の500倍希釈液を計4回散布(150L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 20-1)

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.05 ppm

らっきょう(鱗茎)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 10%水

和剤の 500 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 186 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 20-2)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.05 ppm

らっきょう (鱗茎) を用いた作物残留試験 (1 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 750 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 186 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 20-3)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.05 ppm

らっきょう (鱗茎) を用いた作物残留試験 (1 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 500 倍希釈液を計 4 回散布 (300g/10a) したところ、散布後 14~30 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 20-4)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.17 ppm

らっきょう (鱗茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 500 倍希釈液を計 3 回散布 (150、250L/10a) したところ、散布後 14~30 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 20-5)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.1ppm、<0.1ppm

②1) にんじん

にんじん (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、種子重量の 0.5%相当のメタラキシル 25%水和剤を 1 回、種子に粉衣して播種したところ、播種後 107 日、120 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 21)

メタラキシル及びメタラキシルM : <0.01 ppm、<0.01 ppm

②2) パセリ

パセリ (展開葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 2%粒剤を生育期に計 3 回、株元散布 (10kg/10a) したところ、処理後 22~41 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 22-1)

メタラキシル及びメタラキシルM : 0.22 ppm、0.46 ppm

パセリ (展開葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 2%粒剤を生育期に計 3 回、株元散布 (20kg/10a) したところ、処理後 28 日、22 日の最大残留量^{注1)} はそれぞれ以下のとおりであった。(別紙 1-1 22-2)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.40 ppm、0.56 ppm

②③ みつば

みつば(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を1回散布(150、100L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1-23)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.74ppm、<0.05ppm

②④ せり

せり(茎葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を1回、湛水土壌全面散布(6kg/10a)したところ、散布後22~35日、21~35日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。(別紙1-1-24)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.15 ppm、0.34 ppm

②⑤ トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計5回散布(300、500L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1-25-1)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.34 ppm、0.31 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希釈液を計7回散布(300、500L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1-25-2)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.30 ppm、0.30 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシルM 4.2%フロアブルの826倍希釈液(1.21g/L)を計4回散布(269、258L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1-25-3)

メタラキシル及びメタラキシルM：0.09 ppm、0.15 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシルM 5%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1-25-4)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.12 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシルM 5%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 25-5）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.11 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 25-6）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.17 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 25-7）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.30 ppm

②⑥ ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル8%水和剤の400倍希釈液を計3回散布（200、300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 26）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.20 ppm、0.66 ppm

②⑦ ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1500倍希釈液を計3回、株元灌注（400mL/株）したところ、散布後1～21日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 27-1）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.86 ppm、0.44 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1500倍希釈液を計5回、株元灌注（400mL/株）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 27-2）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.40 ppm、0.38 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計3回、株元散布（4g/株）したところ、散布後1～30日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 27-3）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.38 ppm、0.05 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計3回、株元散布（4g/株）したところ、散布後15日、3日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 27-4）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.31 ppm、0.60 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 1%粒剤を計3回、株元散布（3g/株）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 27-5）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.11 ppm、0.10 ppm

㊸ ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計3回、株元散布（3g/株）したところ、散布後7日、1日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 28）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.08 ppm、0.05 ppm

㊹ なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 10%顆粒水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（200、220L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 29-1）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.20 ppm、0.50 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 3.3%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布（200、130～150L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 29-2）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.08 ppm、0.18 ppm

③⑩ きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 5 回散布（200、500L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－1）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.16 ppm、0.39 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 7 回散布（200、500L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－2）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.20 ppm、0.50 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 4.2%水和剤の 826 倍希釈液（1.21g/L）を計 3 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－3）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.12 ppm、0.17 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシルM 3.3%水和剤の 500 倍希釈液を計 3 回散布（220L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－4）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.18 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 5%水和剤の 1000 倍希釈液を計 4 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－5）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.10 ppm、0.13 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を計 4 回散布（300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 30－6）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.12 ppm、0.24 ppm

③①かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布（300L/10a）したところ、散布後 14～30 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 31－1）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.01 ppm、0.01 ppm

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を生育期に 3 回散布（300、293L/10a）したところ、散布後 7～14 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1－1 31－2）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.05 ppm、0.03 ppm

③②すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を計 3 回散布（250、300L/10a）したところ、散布後 7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1－1 32）

メタラキシル及びメタラキシルM： <0.01 ppm、0.02 ppm

③③メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布（200L/10a）したところ、散布後 3 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 33－1）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.23 ppm、0.04 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 3.3%水和剤の 500 倍希釈液を計 3 回散布（200、250L/10a）したところ、散布後 7～14 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1－1 33－2）

メタラキシル及びメタラキシルM： <0.01 ppm、<0.01 ppm

③④ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、種子重量の 0.5% 相当のメタラキシル 25%水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後 31～47 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1－1 34－1）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、<0.01 ppm

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を播種時に1回全面土壌処理（9kg/10a）したところ、処理後59～69日、113～123日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 34-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.1 ppm、0.32 ppm

③⑤ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（10kg/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 35）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.10 ppm、0.34 ppm

③⑥ しょうが

しょうが（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 36）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.30 ppm、0.31 ppm

③⑦ 葉しょうが

葉しょうが（茎部・塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後21～45日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 37）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.23 ppm、0.19 ppm

③⑧ たらのき

たらのき（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後217日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 38-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm

たらのき（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後186日、229日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 38-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm、0.015 ppm

たらのき（芽部）を用いた作物残留試験（3例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（10kg/10a）したところ、散布後229日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 38-3）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.01 ppm

たらのき（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（30kg/10a）したところ、散布後229日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 38-4）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.046 ppm

③9 うど

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を1回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後25日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 39-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.26 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を1回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後25日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 39-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.26 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル8%水和剤の400倍希釈液を1回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後25日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 39-3）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.48 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を1回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後30日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 39-4）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.02 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル8%水和剤の800倍希釈液を1回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後25～45日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 39-5）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.2 ppm、<0.1 ppm

④⑩くわい

くわい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、湛水散布（6kg/10a）したところ、散布後21日、30日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 40）

メタラキシル及びメタラキシルM：<0.05 ppm、0.12 ppm

④⑪温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル8%水和剤の600倍希釈液を計2回散布（400、500L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 41-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.04 ppm、0.02 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル8%水和剤の600倍希釈液を計2回散布（400、500L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 41-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：1.26 ppm、1.66 ppm

④⑫いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を定植前に1回、畝面土壌混和处理（10kg/10a）したところ、処理後118日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 42-1）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.03 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を定植前に1回、畝面土壌混和处理し、メタラキシル2%粒剤を1回マルチ前土壌表面処理（10kg/10a）したところ、処理後63、89日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 42-2）

メタラキシル及びメタラキシルM：0.13 ppm、0.25 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（1000、300L/10a）し、メタラキシル2%粒剤を土壌混和（10kg/10a）したところ、処理後77～109日、86～116日の最大残留量^{注1)}は以下のと

おりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 42-3)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.026 ppm、0.146 ppm

④3ぶどう

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1250倍希釈液を計1回散布(30L/10a)したところ、散布後44~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-1)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.11 ppm、0.14 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル25%水和剤の1250倍希釈液を計1回散布(30L/10a)したところ、散布後49~83日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-2)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.16 ppm

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル25%水和剤の1250倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後44~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-3)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.37 ppm、0.08 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル25%水和剤の1250倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後49~83日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-4)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.40 ppm

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル25%水和剤の2500倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後45~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-5)

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.15 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル25%

水和剤の2500倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後49日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 43-6)

メタラキシル及びメタラキシルM: 0.14 ppm

④④ パッションフルーツ

パッションフルーツ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回全面散布(300L/10a)したところ、散布後30~45日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。(別紙1-1 44)

メタラキシル及びメタラキシルM: <0.05 ppm、<0.05 ppm

④⑤ ホップ

ホップ(乾花)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理(20g/株)したところ、処理後122、113日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。(別紙1-1 45-1)

メタラキシル及びメタラキシルM: 1.0 ppm、0.6 ppm

ホップ(乾花)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理(20g/株)し、メタラキシル15%水和剤の500倍希釈液を計4回散布(300~600L/10a)したところ、散布後17、12日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 45-2)

メタラキシル及びメタラキシルM: 5.8 ppm、20.0 ppm

ホップ(乾花)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理(20g/株)し、メタラキシル15%水和剤の500倍希釈液を計3回散布(150~200、350~700L/10a)したところ、散布後14~44日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 45-3)

メタラキシル及びメタラキシルM: 5.45 ppm、8.63 ppm

④⑥ みょうが (代替)

みょうが(花蕾)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布(30kg/10a)したところ、散布後30~37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}(別紙1-1 46-1)

メタラキシル及びメタラキシルM: 1.02 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（10及び30kg/10a）したところ、散布後27日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-2）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.64 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（30kg/10a）したところ、散布後30～37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-3）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.60 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後30～37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 46-4）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.44 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計4回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後28～62日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-5）

メタラキシル及びメタラキシルM： 1.16 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後39～73日、28～62日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 46-6）

メタラキシル及びメタラキシルM： 0.35 ppm、0.30 ppm（同圃場）

④7葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～31日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 47）

メタラキシル及びメタラキシルM： <0.01 ppm、<0.01 ppm

④根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～31日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1－1 48）

メタラキシル及びメタラキシルM： <0.005 ppm、0.011 ppm

なお、これらの国内で実施された作物残留試験成績の結果の概要を、別紙1－1に、海外で実施された結果の概要を別紙1－2にまとめた。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

7. 家畜における残留試験

米国及びカナダにおいて、畜産物に係る基準値が設定されている。

① 泌乳山羊における代謝試験

フェニル環を¹⁴C標識したメタラキシルを、飼料中濃度として76.9 ppmに相当する濃度で4日間にわたり泌乳山羊に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位	筋肉 (肢)	筋肉 (腰)	脂肪	肝臓	腎臓	乳汁	
¹⁴ C濃度	0.074	0.065	0.25	1.37	1.06	0.066	
メタラキシル	—	—	—	—	—	—	
代謝物	D	0.014	0.011	0.065	0.185	0.335	0.004
	E	0.009	0.007	0.034	0.110	0.363	0.003
	B	0.004	0.011*	0.007	0.070*	0.029	0.003
	H	0.006	0.004	0.029	0.025	0.036	0.003**
	C1	0.008	0.006	0.007	0.022	0.007	<0.001
	L	0.006	*	0.014	*	0.007	<0.001

—：検出せず

(JMPR 提出資料 ABR-90078 より)

* 印欄の代謝物Bには、代謝物Lが含まれる。

** JMPR では、乳汁中に代謝物Hの脂肪酸抱合体が0.058ppm含まれるとしている。

(代謝物の略号)

代謝物B (Cas 96258-85-4)

2-[(3-ヒドロキシ-2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物C1 (Cas 75596-99-5)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物D (Cas 104390-55-8)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物E (Cas 85933-49-9)

2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物H (Cas 66637-79-4)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物L (Cas 29183-14-0)

N-(2,6-ジメチルフェニル)-2-ヒドロキシアセトアミド

② 乳牛における残留試験

乳牛に対して、飼料中濃度として、75 ppmに相当する濃度のメタラキシルを28日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳汁に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリン(2,6-DMA)に分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている(定量限界:0.01~0.1 ppm)。

表. 乳牛における残留濃度(ppm)

分析部位	混餌投与濃度 ppm (1頭当り のメタラキシル摂取量 mg/day)	投与期間						
		1日	13日	14日	20日	21日	27日	28日
腰肉	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	0.09	—	<0.05	—	0.06
腿肉	0 (0)	—	—	0.06*	—	—	—	0.07*
	75 (1500)	—	—	0.15	—	0.07	—	0.08
脂肪 (大網)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
脂肪 (腎周囲)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
肝臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	0.96	—	0.14	—	0.12
腎臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	5.4	—	0.12	—	0.11
乳汁	0 (0)	<0.01	—	<0.01	—	—	<0.01	—
	75 (1500)	0.02	—	0.02	0.02	—	0.02	—

※検出理由は不明であるが、分析試料の汚染と推察されている。(JMPR提出資料 ABR-82052より)

筋肉で0.06~0.15 ppm、肝臓で0.12~0.96 ppm、腎臓で0.11~5.4 ppm、乳汁で0.02 ppmの検出が認められ、脂肪での検出は認められていない。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷(MTDB)*に基づいて、乳牛等の腎臓の残留基準を0.85ppm(代謝物を含む)と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料(RBD; Reasonably Balanced Diet)に、未同定代謝物を考慮した補正を加えて、飼料負荷(Dietary Burden)を乳牛44ppm、肉牛23ppm及び豚10ppmと算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を0.4 ppm(代謝物を含む)と設定している(EPA Memorandum 2007年4月19日 DP No. 337966)。また、残留飼料を経由した乳汁中における残留については0.02ppmを超える可能性がないとして、残留基準値を0.02ppmに設定している。

なお、農林水産省から稲わら及び粗発酵飼料の指導基準値案として、それぞれ0.5ppm及び0.2ppmが示されており、これら値を用いて、メタラキシル及び2,6-DMAに変換される代謝物の肉類、乳類及び卵類における推定残留値を試算したところ、いずれも0.01ppm未満と推定されている。

*:最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden; MTDB):飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。(参考:Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

8. 産卵鶏における試験

①産卵鶏における代謝試験

フェニル環を¹⁴C標識したメタラキシルを、飼料中濃度として100 ppmに相当する濃度で4日間にわたり産卵鶏に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位	胸肉	腿肉	脂肪	肝臓	腎臓	心臓	砂囊	皮膚 +脂肪	卵黄	卵白	
¹⁴ C濃度	0.554	0.674	0.254	1.391	1.472	0.568	1.416	0.318	0.206	0.179	
メタラキシル	0.002	—		0.018	—	—	0.264	—	0.016	0.009	
代謝物*	J	0.099	0.146	0.001	0.167	0.148	0.062	0.266	0.028	—	0.044
	D	—	—		0.237	0.075	0.012	—	—	—	—
	E	0.011	0.004		0.013	0.010	0.007	0.006	—	0.046	0.008
	H	—	—		0.009	0.019	—	0.030	—	—	—
	I	—	—		—	0.011	—	0.014	—	—	—

—: 検出せず

(JMPR 提出資料 ABR-90077 より)

* JMPR では、代謝物 P (P1 と異性体 P2 の和) が、腿肉に 0.312ppm、脂肪に 0.018 ppm、卵黄に 0.072ppm、卵白に 0.056ppm みられ、主要代謝物としている。

(代謝物の略号)

代謝物D (Cas 104390-55-8)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物E (Cas 85933-49-9)

2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物H (Cas 66637-79-4)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物I

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物J (Cas 104390-56-9)

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物P1

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物P2

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸 (P1の異性体)

② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対して、飼料中濃度として、1.5, 5 ppmに相当するメタラキシルを28日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓及び鶏卵に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-DMAに分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている(定量限界: 0.05~0.1 ppm)。

表. 産卵鶏における残留濃度(ppm)

分析部位	メタラキシルの混餌投与濃度(ppm)	投与期間			
		7日	14日	21日	28日
胸肉+腿肉	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
脂肪	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
肝臓	0	<0.1	—	<0.1	—
	1.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	5.0	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
鶏卵	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

(メーカー資料 Project Number 409006 より)

各組織中のメタラキシルの残留は、いずれの混餌投与濃度、いずれの時期においても 定量限界未満とされている

①の産卵鶏の代謝試験において、フェニル環を ^{14}C 標識したメタラキシルを、飼料中濃度として 100 ppm に相当する濃度で、4 日間にわたって強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び鶏卵に含まれる放射能をメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている。

表. 産卵鶏における残留放射能濃度 (ppm)

組織名	放射能濃度 (メタラキシル相当 ppm)			
胸肉	0.554			
腿肉	0.674			
脂肪	0.254			
肝臓	1.391			
腎臓	1.472			
砂囊	1.416			
心臓	0.568			
皮膚及び付着脂肪	0.318			
分析部位	投与 1 日	投与 2 日	投与 3 日	投与 4 日
卵黄	0.014	0.066	0.138	0.206
卵白	0.127	0.166	0.160	0.179

①の産卵鶏の代謝試験成績から一部を再掲 (JMPR 提出資料 ABR-90077 より)

筋肉で 0.554~0.674 ppm、脂肪で 0.254 ppm、肝臓で 1.391 ppm、腎臓で 1.472 ppm、卵黄、卵白でそれぞれ 0.014~0.206 ppm、0.127~0.179 ppm の検出が認められているが、米国及びカナダで飼料作物を含む農作物に設定されている残留基準の最大値は、20 ppm となっている。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷 (MTDB)* に基づいて、産卵鶏の腎臓の残留基準を 0.7ppm (代謝物を含む) と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料 (RBD ; Reasonably Balanced Diet) に、未同定代謝物を考慮した補正を加えて、飼料負荷 (Dietary Burden) を 10ppm と算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を 0.4 ppm (代謝物を含む) と設定している (EPA Memorandum 2007 年 4 月 19 日 DP No. 337966)。また、両国とも飼料を経由した鶏卵中における残留については 0.05ppm を超える可能性がないとして、残留基準値を 0.05ppm と設定している。

*:最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden ; MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。(参考:Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

9. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成15年7月1日付け厚生労働省発食安第0701015号及び平成19年5月22日付け厚生労働省発食安第0522004号により 食品安全委員会あて意見を求めたところ、メタラキシル及びメタラキシルMに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：2.2mg/kg 体重/day
(動物種) ラット
(投与方法) 混餌（メタラキシル）
(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験
(期間) 2年間
安全係数：100
ADI：0.022 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

2002年にJMPRの毒性評価が行われ、国際基準は、メタラキシルについて、穀類、大豆、らっかせい、てんさい、キャベツ、たまねぎ、にんじん等に設定されている。

米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド及び欧州連合（EU）について、残留基準値を調査したところ、米国において 小豆類、ばれいしょ、だいこん、ねぎ、トマト、核果果実類、いちご、ブルーベリー、ナッツ類、かんきつ類、ぶどう、畜産物等に、カナダにおいて 小麦、大豆、てんさい、キャベツ、ブロッコリー、エンダイブ、レタス、アスパラガス、にんじん、かぼちゃ、ほうれんそう、りんご、アボカド、ひまわりの種子、畜産物等に、オーストラリアにおいて 仁果果実類、パイナップル、マカダミアナッツ等に、ニュージーランドにおいて ベリー類等に、EUにおいて たまねぎ、にんにく、かんきつ類、茶等に、残留基準値が設定されている。いずれの国及び地域においても、現段階では、メタラキシルの基準値がメタラキシルMにも適用されるものとなっている。

11. 基準値案

(1) 残留の規制対象

① 農産物

メタラキシル及びメタラキシルM本体

② 畜産物

メタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dをメタラキシル及びメタラキシルMに換算したものの和

植物体内運命試験において、水稻、レタス、水稻茎葉、ぶどう果実、ばれいしょ塊茎から、

代謝物E (CAS 85933-49-9) が、遊離体と糖抱合体の合計で、総残留放射能 (TRR) の10~20%検出されているが、動物体内運命試験の代謝物としても認められ、親化合物よりも毒性が低いと示唆されることから、農産物の規制対象には代謝物を含めないこととした。

一方、米国及びカナダの基準値を参照した農作物については、代謝物を含む残留値として運用されていることから、親化合物の残留値とするため、植物体内運命試験成績から、親化合物の推定最大割合と推測される0.7を乗じ、一律基準を超える値について、下2桁目を切り上げてメタラキシル及びメタラキシルM本体相当の基準値を設定した。

畜産物については、カナダ及び米国において基準が設定されており、分析対象に代謝物が含まれている。泌乳山羊の組織中の主要残留物は、筋肉、肝臓及び脂肪で代謝物D (CAS 104390-55-8)、腎臓で代謝物E (CAS 85933-49-9)、乳で代謝物H (CAS 66637-79-4) の脂肪酸抱合体とされ、親化合物の検出は認められていない。産卵鶏においては、肝臓、腎臓及び卵白で代謝物J (CAS 104390-56-9) 及びDが主要代謝物とされ、親化合物以上の検出もみられている。毒性については、毒性試験が行われていない代謝物P1、P2及びHを除くいずれの代謝物(遊離体)も、親化合物を上回る毒性は認められていない。同試験成績の評価を行ったJMPCRでは、メタラキシルの残留量について、検出されないか又は一過性に検出されるものとして、現時点では、畜産物への基準設定は行われていない。

親化合物の検出が認められた組織等は鶏の一部に限定されており、親化合物は残留の指標にならないことも考えられることから、2004年のJMPCRの評価、カナダの規制対象として代謝物を含めた基準設定が行われていることを考慮し、また、他の農薬の残留との量り込みの観点から分析対象を限定することが妥当と考えて、畜産物の規制対象をメタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dとした。米国の基準値は、カナダでの親化合物及び2,6-DMAに変換されると推測される代謝物のほか、2-ヒドロキシメチル-6-メチルアニリン(HMMA)部分を有する代謝物や未同定代謝物を含め、すべてを2,6-DMA関連物質と仮定し、残留値を同定率で補正して、代謝物を含めたメタラキシル相当量の基準値として運用している。カナダの基準値は米国で実施された同試験成績を基に評価を行ったものとされており、基準設定に当たり、カナダの基準値を参照する際、動物体内運命試験成績から、親化合物と代謝物Dの推定最大割合と推測される0.2~0.3の係数(家畜について0.3、家きんについて0.2)を乗じ、一律基準以上の値について、端数を切り上げて、メタラキシル及びメタラキシルM相当の基準値(代謝物Dを含む)として設定した。

なお、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価においては、農産物中の暴露評価対象物質として、メタラキシル及びメタラキシルM(親化合物のみ)を設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限までメタラキシル及びメタラキシルM（畜産物においては、代謝物Dを含む）が残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される1日あたりに摂取する農薬の量（理論最大一日摂取許容量（TMDI））のADIに対する比率は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI/ADI (%) 注)
国民平均	31.6
幼小児（1～6歳）	64.4
妊婦	27.0
高齢者（65歳以上）	29.0

(4) 本剤については、平成17年11月29日付け厚生労働省告示第499号により、食品一般の成分規格7に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

メタラキシル及びメタラキシルMの国内作物残留試験一覧表

	農作物	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
1-1	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 80g/箱	2回	134日	圃場A:<0.01(#)
						142日	圃場B:<0.01(#)
	水稲 (稲わら)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬+ 育苗箱処理 80g/箱	2回	134日	圃場A:<0.04(#)
						142日	圃場B:<0.04(#)
1-2	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 +灌水散布(2回) 80g/箱+ 12.5kg/10a(2回)	4回	93日	圃場A:<0.01
						70日	圃場B: 0.02
	水稲 (稲わら)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬+ 育苗箱処理+ 灌水散布(2回) 80g/箱+ 12.5kg/10a(2回)	4回	93日	圃場A: 0.01(#)
						70日	圃場B: 0.22(#)
1-3	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 0.5%粉剤+ メタラキシル 4%液剤+ メタラキシル 2%粒剤	育苗箱処理+ 500倍育苗箱処理(2回)+ 灌水散布(2回) 8g/箱+ 500mL/箱(2回)+ 60g/10a(2回)	5回	45日	圃場A: 0.06(#)
						45日	圃場B: 0.028(#)
	水稲 (稲わら)	2	メタラキシル 0.5%粉剤+ メタラキシル 4%液剤+ メタラキシル 2%粒剤	育苗箱処理+ 500倍育苗箱処理(2回)+ 灌水散布(2回) 8g/箱+ 500mL/箱(2回)+ 60g/10a(2回)	5回	45日	圃場A:0.2(#)
						45日	圃場B:0.1(#)
2-2	だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	143日	圃場A:<0.005
						130日	圃場B:<0.005
2-3	だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 200L, 100L/10a	3回	21日	圃場A:<0.005
						21日	圃場B:<0.005
3	あずき (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 120, 200L/10a	3回	21日	圃場A: 0.014
						21日	圃場B: 0.028
4-1	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	4回	6日	圃場A: <0.05(#)
						14日	圃場B: 0.06(#)
4-2	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	6回	7日	圃場A: 0.11(#)
						7日	圃場B: 0.16(#)
4-3	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤 (フロアブル)	413倍散布 (2.42g/L) 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A: <0.01(#)
						7, 14, 21日	圃場B: 0.01(#)
5-1	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	作条処理 10, 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
						168日	圃場B: 0.02
5-2	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	全面土壌混和 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
						168日	圃場B: 0.06
5-3	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時全面土壌混和 15kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
5-4	こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 5kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
						141日	圃場C:<0.008
5-5	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 10kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
5-6	こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理+ 培土時株元散布 5kg/10a+5kg/10a	2回	114日	圃場A:<0.008(#)
						133日	圃場B:<0.008(#)
						103日	圃場C:<0.008(#)
5-7	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	培土時土壌表面散布 5kg/10a	1回	151, 158, 165日	圃場A:<0.05
						99, 106, 113日	圃場B:<0.05

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル及びメタラキシルM】	
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
6	さとうきび (茎部)	2	メタラキシル 0.5%粉剤	植溝土壌混和 5kg/10a	1回	243日	圃場A:<0.01	
						243日	圃場B:<0.01	
7-1	だいこん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04	
						64日	圃場B:<0.04	
7-2	だいこん (葉部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04	
						64日	圃場B:<0.04	
7-3	だいこん (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和処理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.03	
						50日	圃場B: 0.05	
7-4	だいこん (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和処理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.04	
						50日	圃場B: 0.05	
8-1	かぶ (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和処理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1	
						85日	圃場B:<0.1	
8-2	かぶ (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和処理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1	
						85日	圃場B:<0.1	
9	わさびだいこん (西洋ワサビ) (根部)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 400, 200L/10a	3回	14日	圃場A:<0.02	
						14日	圃場B: 0.03	
10-1	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.20(＃)	
						7, 14, 21日	圃場B: 0.148(＃)	
10-2	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A: 0.071(＃) ※	
						7, 14, 21日	圃場B: 0.21(＃)	
10-3	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	6回	7, 14, 21日	圃場A: 0.14(＃)	
						7, 14, 21日	圃場B: 0.159(＃)	
10-4	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	粉衣(1回)+800倍散布(3回) 種子重量の0.5%+200L/10a	4回	7日	圃場A: 0.020	
						7日	圃場B: 0.088	
10-5	はくさい (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 220, 250~300L/10a	3回	7, 14日	圃場A: 0.02(＃)	
						7, 14日	圃場B: 0.03(＃)	
11-1	キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	83日	圃場A:<0.01	
						115日	圃場B:<0.01	
11-2	キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 200~250L/10a	3回	30日	圃場A: 0.02	
						30日	圃場B: 0.06	
12	こまつな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種前全面土壌混和処理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 0.20	
						21日	圃場B: 0.44	
13	みずな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和処理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 1.02	
						21日	圃場B: 0.40	
14	チンゲンサイ (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和処理 9kg/10a	1回	25日	圃場A: 0.52	
						25日	圃場B: 0.16	
15	ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 100~280L/10a	3回	21日	圃場A:<0.1	
						21日	圃場B:<0.01	
16	ひろしまな (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 150L/10a	1回	7日	圃場A: 0.26	
						7日	圃場B: 0.25	
17	タアサイ (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和処理 9kg/10a	1回	28日	圃場A: 0.26(＃) ※	
						28日	圃場B:<0.05(＃)	

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
18-1	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 200L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01
						7, 14, 21日	圃場B: 0.028 ※
18-2	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	湿粉衣 種子重量の0.5%	1回	166日	圃場A:<0.01
						245日	圃場B:<0.01
18-3	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤+ 8%水和剤	湿粉衣+400倍散布 (3回) 種子重量の0.5%+ 100, 150L/10a	4回	7, 14日	圃場A:<0.01
						7, 14日	圃場B:<0.01
18-4	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	8倍空中散布 1.5~1.8L/10a	3回	7日	圃場A:<0.01
						7日	圃場B:<0.01
18-5	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	7日	圃場A:<0.01 (#)
						7日	圃場B:<0.01 (#)
19	ねぎ (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	14日	圃場A: 0.02 (#)
						14日	圃場B: 0.03 (#)
48	根深ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.005
						14, 21, 30日	圃場B:<0.005
47	薬ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01
						14, 21, 31日	圃場B:<0.01
20-1	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	4回	21日	圃場A:<0.05 (#)
20-2	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A:<0.05
20-3	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	750倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A:<0.05
20-4	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 300g/10a	4回	30日	圃場A:0.17 (#) ※
20-5	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150, 250L/10a	3回	30日	圃場A:<0.1
21	にんじん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	107日	圃場A:<0.01
						120日	圃場B:<0.01
22-1	パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 10kg/10a	3回	22, 32, 41日	圃場A: 0.22
						22, 32, 41日	圃場B: 0.46
22-2	パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 20kg/10a	3回	28日	圃場A: 0.40
						22日	圃場B: 0.56
23	みつば (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 150, 100L/10a	1回	14日	圃場A: 0.74
						14日	圃場B:<0.05
24	せり (その他のゆり科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水土壌全面散布 6kg/10a	1回	22日	圃場A: 0.15
						21日	圃場B: 0.34
25-1	トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.34 (#)
						1日	圃場B: 0.31 (#)
25-2	トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30 (#)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.30 (#)
25-3	トマト (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	826倍散布 269, 258L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.09 (#)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.15 (#)
25-4	トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12 (#)
25-5	トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.11 (#)
25-6	トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.17
25-7	トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30
26	ミニトマト (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	400倍散布 200, 300L/10a	3回	1日	圃場A: 0.20
						1日	圃場B: 0.66

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
27-1	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	3回	1, 3, 7, 14, 21日	圃場A: 0.86(＃) ※
						1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.44(＃)
27-2	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	5回	1, 3, 7日	圃場A: 0.40(＃)
						1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.38(＃)
27-3	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	7日	圃場A: 0.38(＃)
						1日	圃場B: 0.05(＃)
27-4	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	15日	圃場A: 0.31(＃)
						3日	圃場B: 0.60(＃)
27-5	ピーマン (果実)	2	メタラキシルM 1%粒剤	株元散布 3g/株	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.11
						1, 3, 7日	圃場B: 0.10
29-1	なす (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 220L/10a	4回	1日	圃場A: 0.20
						1日	圃場B: 0.50
29-2	なす (果実)	2	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 200, 130~150L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A: 0.08(＃)
						1, 7, 14日	圃場B: 0.18(＃)
28	ししとう (その他のなす科野菜) (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 3g/株	3回	7日	圃場A: 0.08
						1日	圃場B: 0.05
30-1	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.16(＃)
						1日	圃場B: 0.39(＃)
30-2	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.20(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.50(＃)
30-3	きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 4.2%フロアブル	826倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.17(＃)
30-4	きゅうり (果実)	1	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 220L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.18(＃)
30-5	きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.10(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.13(＃)
30-6	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.24(＃)
31-1	かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 300L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A: 0.01(＃)
						14, 21, 30日	圃場B: 0.01(＃)
31-2	かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 293L/10a	3回	7日	圃場A: 0.05
						7日	圃場B: 0.03
32	すいか (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 250, 300L/10a	3回	7日	圃場A: <0.01
						7日	圃場B: 0.02
33-1	メロン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3日	圃場A: 0.23(＃)
						3日	圃場B: 0.04(＃)
33-2	メロン (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 300, 250L/10a	3回	7, 14日	圃場A: <0.01(＃)
						7, 14日	圃場B: <0.01(＃)
34-1	ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	40, 47日	圃場A: <0.01
						31, 38日	圃場B: <0.01
34-2	ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和処理 9kg/10a	1回	59日	圃場A: <0.1
						113日	圃場B: 0.32
35	オクラ (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 10kg/10a	3回	1日	圃場A: 0.10
						7日	圃場B: 0.34
36	しょうが (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	60日	圃場A: 0.30
						46日	圃場B: 0.31
37	薬しょうが (しょうが) (茎部, 塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	45日	圃場A: 0.23
						30日	圃場B: 0.19
2-1	だいず (えだまめ)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	108日	圃場A: <0.005(＃)
						100日	圃場B: <0.005(＃)

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
38-1	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	1回	217日	圃場A:<0.01
38-2	たらのき (その他の野菜) (芽部)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	186日	圃場A:<0.01
						229日	圃場B: 0.015
38-3	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	229日	圃場A:<0.008
38-4	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	2回	229日	圃場A: 0.046
39-1	うど (その他の野菜) (莖葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.26
39-2	うど (その他の野菜) (莖葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800培根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場B: 0.26
39-3	うど (その他の野菜) (莖葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	400倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.48(#)
39-4	うど (その他の野菜) (莖葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	20, 30日	圃場A: 0.02
39-5	うど (その他の野菜) (莖葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	根株瞬間浸漬 800倍	1回	25, 35, 45日	圃場A: 0.2
						25, 35, 45日	圃場B:<0.1
40	くわい (その他の野菜) (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水散布 6kg/10a	2回	21日	圃場A:<0.05
						30日	圃場B: 0.12
41-1	温州みかん (果肉)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 400, 500L/10a	2回	14日	圃場A: 0.04(#)
						14日	圃場B: 0.02(#)
41-2	温州みかん (果皮) (その他のスパイス)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 400, 500L/10a	2回	14日	圃場A: 1.26(#)
						14日	圃場B: 1.66(#)
42-1	いちご (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	定植前畝面土壌混和处理+ マルチ前土壌表面処理 10kg/10a (1回) + 10kg/10a (1回)	2回	89日	圃場A: 0.13(#)
						63日	圃場B: 0.25(#)
42-2	いちご (果実)	1	メタラキシル 2%粒剤	定植前畝面土壌混和处理 10kg/10a	1回	118日	圃場A: 0.03
42-3	いちご (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤+ 2%粒剤	1000倍散布 (3回) + 土壌混和 (1回) 1000, 300L/10a+10kg/10a	4回	77日	圃場A: 0.026
						86日	圃場B: 0.146
43-1	ぶどう (小粒種) (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	1回	45, 60, 80日	圃場A: 0.11(#)
						44, 59, 75日	圃場B: 0.14(#)
43-2	ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	1回	49, 64, 83日	圃場A: 0.16(#)
43-3	ぶどう (小粒種) (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	2回	45, 60, 80日	圃場A: 0.37(#)
						44, 59, 75日	圃場B: 0.08(#)
43-4	ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	2回	49, 64, 83日	圃場A: 0.40(#) ※
43-5	ぶどう (小粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	2500倍散布 300L/10a	2回	60日	圃場A: 0.15(#)
43-6	ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	2500倍散布 300L/10a	2回	49日	圃場B: 0.14(#)
44	パッションフルーツ (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	3回	30日	圃場A:<0.05
						30日	圃場B:<0.05

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
45-1	ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元処理 20g/株	1回	122日	圃場A: 1.0
						113日	圃場B: 0.6
45-2	ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤+ 15%水和剤	株元処理(1回)+ 500倍散布(4回) 20g/株+ 300~600L/10a	5回	17日	圃場A: 5.8(#)
						12日	圃場B: 20.0(#) ※
45-3	ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤+ 15%水和剤	株元処理(1回)+ 500倍散布(3回) 20g/株+ 150~200, 350~700 L/10a	4回	14, 21, 30, 44日	圃場A: 5.45(#)
						14, 21, 30, 44日	圃場B: 8.63(#)
46-1	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	2回	30, 37日	圃場A: 1.02(#)
46-2	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 10および30kg/10a	2回	27日	圃場A: 0.64(#)
46-3	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	1回	30, 37日	圃場A: 0.60(#)
46-4	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	1回	30, 37日	圃場A: 0.44
46-5	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	2	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	4回	28, 47, 62日	圃場A: 1.16(#) ※
46-6	みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	2	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	73日	圃場A: 0.35
						28日	圃場A: 0.30

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

※印は、基準設定根拠となった作物残留試験成績を上回る別の作物残留試験の残留値。

メタラキシルMに係る **みょうが**の作物残留試験(*印)は、既登録のメタラキシルと同じ剤型(粒剤)であり、投下薬量がメタラキシルの範囲内であるとして、メタラキシルの試験成績で代替されている。

食品安全委員会農業専門調査会の農薬評価書(案)「メタラキシル及びメタラキシルM」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm)		
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
インゲン (種実) ○小豆類	5	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布	1	90	圃場A: <0.05* (#)	
		メタラキシル 5%乳剤				圃場B: <0.05* (#)	
		メタラキシル 25.2%乳剤	4.0 lbs. ai/A 播種時、 全面土壌散布			圃場C: <0.05* (#)	
		メタラキシル 5%乳剤				圃場D: <0.05* (#)	
		メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			108	圃場E: 0.06* (#) 圃場E: 0.06* (#)
エンドウ (種実) ○えんどう	7	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布	1	66	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: <0.05* (#)	
			2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場B: 0.11* (#) 圃場B: <0.05* (#)	
			4.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場C: 0.08* (#)	
			0.25 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場D: <0.05* 圃場D: <0.05*	
			0.5 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場E: 0.06*	
			2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
		メタラキシル 5%粒剤	2.0 lbs. ai/A 播種時、全面土壌散布			89	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: 0.06* (#)
リマ豆 (種実) ○その他の豆類	4	メタラキシルM 4.7%水和剤	0.1 lbs. ai/A 播種時 全面土壌散布	4	3	圃場A: <0.05* 圃場A: <0.05*	
						2	圃場B: <0.05* 圃場B: <0.05*
						4	圃場C: <0.05*
						2	圃場D: <0.05* 圃場D: <0.05*
○ばれいしょ (塊茎)	16	メタラキシル 25.2%乳剤、 メタラキシル 8%水和剤	メタラキシル25.2% 乳剤、種いも播種時 畝間処理 12 g a. i. /1000 linear foot、 1回および メタラキシル8%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2 lb. a. i. /A、4回	5	4	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: <0.05* (#)	
		メタラキシルM 45.9%乳剤、 または メタラキシルM 3.96%水和剤				メタラキシルM 45.9%乳剤、種いも播種 時、 6 g a. i. /1000 linear foot、1回 および メタラキシルM3.96%水和剤、生育期、 茎葉処理 0.2 lb. a. i. /A、4回	3
			メタラキシルM 45.9%乳剤、種いも播種 時、 6 g a. i. /1000 linear foot、1回 および メタラキシルM3.96%水和剤、生育期、 茎葉処理 0.2 lb. a. i. /A、4回				4
			メタラキシル8%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2lb. a. i. /A、4回 合計0.8 lb. a. i. /A			3	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#)
						4	圃場I: <0.05* (#) 圃場I: <0.05* (#) 圃場J: <0.05* (#) 圃場J: <0.05* (#) 圃場K: <0.05* (#) 圃場K: <0.05* (#) 圃場L: <0.05* (#) 圃場L: <0.05* (#)
			メタラキシルM 3.96%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2 lb. a. i. /A、4回、合計0.8 lb. a. i. /A			3	圃場M: <0.05* (#) 圃場M: <0.05* (#)
						4	圃場N: <0.05* (#) 圃場N: <0.05* (#) 圃場O: <0.05* (#) 圃場O: <0.05* (#) 圃場P: <0.05* (#) 圃場P: <0.05* (#)

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数 経過日数		
だいこん (根部) だいこん (根部) だいこん (根部)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および	3	7	圃場A: 0.24* (#)
だいこん (根部)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 lb. ai/A 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A			圃場A: 0.29* (#)
だいこん (葉部)		メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および			圃場B: 0.25* (#)
だいこん (葉部)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 lb. ai/A 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A			圃場B: 0.35* (#)
だいこん (葉部)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および	3	7	圃場B: 0.57* (#)
だいこん (葉部)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 lb. ai/A 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A			圃場C: 0.23* (#)
だいこん (葉部)		メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および			圃場C: 0.28* (#)
だいこん (葉部 および 根部)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤,0.5 lb. a. i. /A 生育期、茎葉散布	1	16	圃場A: 0.16*
だいこん (葉部 および 根部)		2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤,1.0 lb. a. i. /A 生育期、茎葉散布			圃場B: 0.08*
だいこん (葉部 および 根部)		2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤,1.0 lb. a. i. /A 播種時、畝間散布			圃場C: 0.09*
トマト (成熟果実)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤0.99 lb. ai/A 2回土壌表面散布	6	5	圃場A: 0.18* (#)
トマト (成熟果実)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 0.25 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計2.98 lb. ai/A			圃場A: 0.14* (#)
トマト (成熟果実)		メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤2.97 lb. ai/A 2回土壌表面散布		5	圃場B: <0.05* (#)
トマト (成熟果実)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 0.75 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計8.94 lb. ai/A			圃場B: 0.05* (#)
トマト (成熟果実)		メタラキシル 25.2%乳剤	メタラキシル25.2%乳剤4.95 lb. ai/A 2回土壌表面散布		5	圃場C: 0.44* (#)
トマト (成熟果実)		メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル8.9% 水和剤 1.25 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計14.9 lb. ai/A			圃場C: 0.53* (#)
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう	7	メタラキシルM 49%乳剤	メタラキシルM 49%乳剤、定植前、土壌表面散布	3	7	圃場A: <0.05 (#)
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 4.7%水和剤	メタラキシルM 4.7%水和剤、1回			圃場B: <0.05 (#)
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 2%乳剤	メタラキシルM 2%乳剤、1回		圃場C: <0.05 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 4.7%水和剤	メタラキシルM 4.7%水和剤、2回		圃場D: <0.05 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 2%乳剤	メタラキシルM 2%乳剤、2回		圃場E: <0.05 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 4.7%水和剤	メタラキシルM 4.7%水和剤、2回		圃場F: 0.531 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 2%乳剤	メタラキシルM 2%乳剤、2回		圃場F: 0.172 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 4.7%水和剤	メタラキシルM 4.7%水和剤、2回		圃場F: 0.074 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 2%乳剤	メタラキシルM 2%乳剤、2回		圃場G: 0.05 (#)	
スナップ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう		メタラキシルM 4.7%水和剤	メタラキシルM 4.7%水和剤、2回		圃場G: <0.05 (#)	
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん	4	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A、 全面散布	1	62	圃場A: 0.86* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 5%粒剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場B: 0.61* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 25.2%乳剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場B: 0.52* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 5%粒剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場C: 0.81* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん	4	メタラキシル 25.2%乳剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布	1	62	圃場D: 0.60* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 5%粒剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場D: 0.60* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 25.2%乳剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場D: 0.60* (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん		メタラキシル 5%粒剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場D: 0.60* (#)

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留値 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
未成熟大豆 (青刈) ○えだまめ	6	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A、 全面散布	1	65	圃場A: 0.11 (#)
			4.0 lbs. ai/A、 全面散布			圃場B: 0.11 (#)
			2.0 lbs. ai/A、 全面散布		59	圃場C: 0.10 (#)
			4.0 lbs. ai/A、 全面散布		64	圃場D: <0.05 (#) 圃場E: <0.05 (#)
ジンセン (根茎) ○その他の野菜	14	メタラキシル 25.2%乳剤 または メタラキシル 5%粒剤 2%乳剤	5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	5	9	圃場A: 2.3*
			5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布			圃場A: 2.5*
			5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布			圃場B: 6.7* (☆)
			5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布			圃場B: 1.2*
			5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布			圃場C: 0.79*
			5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布			圃場C: 0.96*
			25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布			圃場D: 1.4*
			5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布		圃場E: 0.49*	
			25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布		圃場E: 0.40*	
			5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布		圃場F: 0.40*	
			5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布		圃場F: 0.54*	
			25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布		圃場G: 0.50*	
			5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布		圃場G: 0.38*	
			5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布		圃場H: 0.77*	
25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場H: 0.66 *					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場I: 1.2 *					
25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場J: 0.71*					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場J: 0.82*					
5%粒剤、1.5 lbs. ai/A 2回、1.0 lbs. ai/A、3回 合計6.0 lbs. ai/A散布	圃場K: 0.24*					
25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場K: 0.35*					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場L: 0.68*					
25.2%乳剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場M: 0.30*					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場M: 0.30*					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場N: 0.18*					
5%粒剤、0.75 lbs. ai/A 2回、0.5 lbs. ai/A、3回 合計3.0 lbs. ai/A散布	圃場N: 0.22*					
○もも (果実)	4	メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A	3	0	圃場A: <0.05* (#)
						圃場A: 0.21* (#)
					14	圃場A: 0.11* (#)
					26	圃場A: 0.07* (#)
					0	圃場A: 0.10* (#)
					14	圃場A: 0.34* (#)
					0	圃場B: 0.18* (#)
					14	圃場B: 0.10* (#)
					29	圃場B: 0.07* (#)
					0	圃場B: 0.17* (#)
	14	圃場B: 0.11* (#)				
	0	圃場C: 0.32* (#)				
	14	圃場C: 0.48* (#)				
	27	圃場C: 0.36* (#)				
	0	圃場C: 0.23* (#)				
	14	圃場C: 0.48* (#)				
	27	圃場C: 0.38* (#)				
	0	圃場D: 0.58* (#)				
	14	圃場D: 0.90* (#)				
	27	圃場D: 0.57* (#)				
	0	圃場D: 0.42* (#)				
	14	圃場D: 0.44* (#)				
	27	圃場D: 0.84* (#)				

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留値 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○あんず (果実)	2	メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A	3	0	圃場A: 0.49* (#) 圃場A: 0.52* (#)
			16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		14	圃場A: 0.58* (#) 圃場A: 0.58* (#)
		メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A		0	圃場B: 0.82* (#) 圃場B: 0.76* (#)
			16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		14	圃場B: 0.77* (#) 圃場B: 0.55* (#)
○すもも (果実)	2	メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A	3	0	圃場A: 0.19* (#) 圃場A: 0.17* (#)
			16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		14	圃場A: 0.27* (#) 圃場A: 0.26* (#)
			8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A		30	圃場A: 0.24* (#) 圃場A: 0.23* (#)
		メタラキシル 25.2%乳剤	16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		0	圃場B: 0.34* (#) 圃場B: 0.33* (#)
			8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A		14	圃場B: 0.41* (#) 圃場B: 0.35* (#)
			16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		30	圃場B: 0.47* (#) 圃場B: 0.42* (#)
○おうとう (果実)	7	メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A	3	0	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: 0.07* (#)
			16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A		13	圃場A: 0.09* (#) 圃場A: <0.05* (#)
					30	圃場A: 0.07* (#) 圃場A: <0.05* (#)
					15	圃場B: 0.12* (#) 圃場B: 0.17* (#)
					31	圃場B: 0.12* (#) 圃場B: 0.12* (#)
			8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A		15	圃場C: 0.32* (#) 圃場C: 0.25* (#)
					31	圃場D: 0.35* (#) 圃場D: 0.24* (#)
					0	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: 0.05* (#)
		14			圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)	
		16.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs. ai/A	0		圃場E: 0.26* (#) 圃場E: 0.26* (#)	
			14		圃場E: 0.10* (#) 圃場E: 0.13* (#)	
			28		圃場E: 0.10* (#) 圃場E: 0.08* (#)	
			14		圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
		8.0 lbs. ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs. ai/A	28		圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
			14		圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)	
			28		圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)	
14	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)					
○いちご (果実)	8	メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A	3	0	圃場A: 4.1* (#) 圃場A: 3.4* (#)
			1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場B: 2.5* (#) 圃場B: 2.4* (#)
		メタラキシル 50%水和剤	1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場C: 2.6* (#) 圃場C: 2.8* (#)
			1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場D: 3.7* (#) 圃場D: 4.5* (#)
		メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場E: 3.2* (#) 圃場E: 1.1* (#)
			1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場F: 3.5* (#) 圃場F: 0.93* (#)
		メタラキシル 50%水和剤	1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場G: 3.1* (#) 圃場G: 3.0* (#)
			1.0 lbs. ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs. ai/A			圃場H: 2.7* (#) 圃場H: 2.3* (#)

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留値 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
○ブルーベリー (果実)	13	メタラキシル 25.2%乳剤	3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	2	0	圃場A: 1.63* (#) 圃場A: 1.54* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		18	圃場A: 0.24* (#) 圃場A: 0.13* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		34	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: 0.07* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場B: 1.53* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		18	圃場B: 0.46* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		34	圃場B: 0.25* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場C: 0.06* (#) 圃場C: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		16	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		31	圃場C: 0.05* (#) 圃場C: 0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場D: 0.07* (#) 圃場D: 0.07* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		14	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		29	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場E: 0.10* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		14	圃場E: 0.17* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		29	圃場E: 0.24* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		14	圃場F: 0.06* (#) 圃場F: 1.62* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		28	圃場F: 0.09* (#) 圃場F: 0.09* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場G: 0.15* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		14	圃場G: 0.15* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		28	圃場G: 0.16* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場H: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		14	圃場H: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		28	圃場H: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場I: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		14	圃場I: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		28	圃場I: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場J: <0.05* (#)
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	14	圃場J: <0.05* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	28	圃場J: 0.08* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	0	圃場K: <0.05* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	14	圃場K: <0.05* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	30	圃場K: 0.07* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	0	圃場L: 1.1* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	14	圃場L: 0.05* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	30	圃場L: <0.05* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	0	圃場M: 0.61* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	14	圃場M: <0.05* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壤散布1回 土壤灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	28	圃場M: 0.05* (#)				

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留値 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数			
○ア-モント [®] (子実)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面散布	1	0	圃場A: 0.17* (#) 圃場A: 0.16* (#)	
					14	圃場A: 0.25* (#) 圃場A: 0.25* (#)	
					29	圃場A: 0.20* (#) 圃場A: 0.19* (#)	
					0	圃場B: 0.23* (#) 圃場B: 0.23* (#)	
					14	圃場B: 0.33* (#) 圃場B: 0.36* (#)	
					29	圃場B: 0.32* (#) 圃場B: 0.31* (#)	
			0		圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)		
			14		圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)		
			28		圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)		
			0		圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)		
			14		圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)		
			28		圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)		
		0	圃場E: 0.15* (#) 圃場E: 0.19* (#)				
		14	圃場E: 0.19* (#) 圃場E: 0.22* (#)				
		29	圃場E: 0.17* (#) 圃場E: 0.17* (#)				
		0	圃場F: 0.88* (#) 圃場F: 0.59* (#)				
		14	圃場F: 0.80* (#) 圃場F: 0.66* (#)				
		29	圃場F: 0.71* (#) 圃場F: 0.57* (#)				
				16.0 lbs. ai/A 全面散布			
				8.0 lbs. ai/A 全面散布			
				16.0 lbs. ai/A 全面散布			
				8.0 lbs. ai/A 全面散布			

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留値 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
○クルミ (子実)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs. ai/A 全面散布	1	0	圃場A: 0.08* (#)
					15	圃場A: 0.07* (#) 圃場A: 0.09* (#)
					30	圃場A: 0.06* (#) 圃場A: 0.08* (#)
			0		圃場B: 0.08* (#)	
			15		圃場B: 0.08* (#) 圃場B: 0.13* (#)	
			30		圃場B: 0.07* (#) 圃場B: <0.05* (#)	
		16.0 lbs. ai/A 全面散布	8.0 lbs. ai/A 全面散布	1	0	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					14	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					30	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
			0		圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)	
			14		圃場D: 0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)	
			30		圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)	
		8.0 lbs. ai/A 全面散布	16.0 lbs. ai/A 全面散布	1	0	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)
					16	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)
					30	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)
			0		圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
			16		圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
			30		圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
		16.0 lbs. ai/A 全面散布	8.0 lbs. ai/A 全面散布	1	0	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)
					16	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)
					30	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)
			0		圃場H: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#)	
			16		圃場H: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#)	
			30		圃場H: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#)	

(#) これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

(☆) 棄却検定での外れ値 (p<0.01) により、評価対象から除外。

上記のほか、1982~83年に かんきつ類 (オレンジ、レモン、グレープフルーツ) について、試験が実施されている。

* : メタラキシルおよびその代謝物を加水分解して生成した2,6-ジメチルアニリンを定量し、換算係数2.305をかけてメタラキシル当量の値として示したもの。

メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (EU)

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○たまねぎ** (鱗茎)	4	メタラキシルM 4%水和剤 散布	450 g a.i./ha 散布	3	0	圃場A: 0.06 (#)
					7	圃場A: 0.02 (#)
					7	圃場A: <0.02 (#)
					14	圃場A: <0.02
					21	圃場A: <0.02
					0	圃場B: 0.07 (#) ※
					7	圃場B: <0.02 (#)
					7	圃場B: 0.02 (#)
					14	圃場B: <0.02
					21	圃場B: <0.02
					0	圃場C: 0.04 (#)
					7	圃場C: <0.02 (#)
					14	圃場C: <0.02
					21	圃場C: <0.02
0	圃場D: <0.02 (#)					
7	圃場D: <0.02 (#)					
14	圃場D: <0.02					
21	圃場D: <0.02					
レモン	4	メタラキシルM 2.5%粒剤 42.5%水和剤	2.5%粒剤 1 g a.i./樹 株元処理2回 200 g a.i./ha 茎葉散布2回	4	0	圃場A: 0.27 (全果) (#)
					7	圃場A: 0.10 (全果) (#)
					15	圃場A: 0.08 (全果換算) (#)
					30	0.14 (果皮) (#)
					30	圃場A: 0.05 (全果) (#)
					0	圃場B: 0.48 (全果) (#)
					7	圃場B: 0.31 (全果) (#)
					15	圃場B: 0.37 (全果換算) (#)
					30	0.68 (果皮) (#)
					30	圃場B: 0.32 (全果) (#)
					0	圃場C: 0.27 (全果) (#)
					7	圃場C: 0.24 (全果) (#)
	15	圃場C: 0.28 (全果換算) (#)				
	30	0.48 (果皮) (#)				
30	圃場C: 0.25 (全果換算) (#)					
	0.43 (果皮) (#)					
0	圃場D: 0.32 (全果) (#)					
7	圃場D: 0.20 (全果) (#)					
15	圃場D: 0.41 (全果換算) (#)					
30	0.63 (果皮) (#)					
30	圃場D: 0.27 (全果換算) (#)					
	0.50 (果皮) (#)					
オレンジ	2	メタラキシル 25%水和剤	25%水和剤 320 g a.i./ha 茎葉散布 (計 1920 g a.i./ha)	6	137	圃場E: <0.03 (全果実) (#)
					137	圃場F: <0.03 (全果実) (#)
オレンジ	5	メタラキシルM 2.5%粒剤 42.5%水和剤	2.5%粒剤 1.00 g/sqm 土壌処理2回 42.5%水和剤 3179g .i./ha 茎葉散布2回	4	0	圃場A: 0.38 (全果) (#)
					15	圃場A: 0.11 (全果換算) (#)
						0.25 (果皮) (#)
					0	圃場B: 0.05 (全果平均) (#)
					15	圃場B: 0.02 (全果換算) (#)
						0.04 (果皮) (#)
					0	圃場C: 0.09 (全果平均) (#)
					7	圃場C: 0.06 (全果平均) (#)
					7	圃場C: 0.05 (全果平均) (#)
					15	圃場C: 0.03 (全果換算) (#)
						0.06 (果皮) (#)
					21	圃場C: <0.02 (全果平均) (#)
					0	圃場D: 0.29 (全果平均) (#)
					4	圃場D: 0.07 (全果平均) (#)
7	圃場D: 0.05 (全果平均) (#)					
15	圃場D: 0.05 (全果換算) (#)					
	0.11 (果皮平均) (#)					
21	圃場D: 0.03 (全果平均) (#)					
0	圃場E: 1.0 (全果平均) (#)					
14	圃場E: 0.11 (全果換算) (#)					
	0.24 (果皮) (#)					
マンダリン (その他のかんきつ類果実)	4	メタラキシルM 42.5%水和剤	42.5%水和剤 200 g a.i./ha 茎葉散布 (計 400g a.i./ha)	2	0	圃場A: 0.39 (全果) (#)
					7	圃場A: 0.20 (全果) (#)
					7	圃場A: 0.18 (全果) (#)
					15	圃場A: 0.17 (全果) (#)
		30	圃場A: 0.13 (全果) (#)			
		14	圃場B: 0.08 (全果換算) (#)			
		15	圃場C: 0.16 (全果換算) (#)			
		0	圃場D: 0.21 (全果) (#)			
16	圃場D: 0.17 (全果換算) (#)					
	0.41 (果皮) (#)					

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○りんご	4	メタラキシルM 2.5%粒剤	10 kg a. i. /ha (4g a. i. /tree)	2	0	圃場A: <0.02 (＃)
					4	圃場A: <0.02 (＃)
					7	圃場A: <0.02 (＃)
					14	圃場A: <0.02 (＃)
		21	圃場A: <0.02			
		0	圃場B: <0.02 (＃)			
		3	圃場B: <0.02 (＃)			
		7	圃場B: <0.02 (＃)			
	14	圃場B: <0.02 (＃)				
	21	圃場B: <0.02				
	4	メタラキシルM 2.5%粒剤	1 g a. i. /tree	2	0	圃場C: <0.02 (＃)
					7	圃場C: <0.02 (＃)
					14	圃場C: <0.02 (＃)
					21	圃場C: <0.02
0					圃場D: <0.02 (＃)	
7					圃場D: <0.02 (＃)	
14	圃場D: <0.02 (＃)					
21	圃場D: <0.02					

(#) これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

* : 全果 (fruit) は、全果を分析した残留値。全果換算 (fruit subspecimen) は、果実と果皮に分けて分析し、全果の濃度に換算した値。平均値の算出においては、全果又は全果換算のPHIの値を 全果として算出に供している。

** : EUでは、Garlic and shallotの基準値設定に係る代替を兼ねて、bulb onionsの試験成績が記載されている。garlicの残留試験は実施されていないが、bulb onionsの試験成績をGarlicおよびshallotsに外挿可能とされている。(また、spring onionsの試験成績は Welsh onionsに外挿可能とされている。)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm	
米 (玄米をいう。)	0.1	0.1	○・甲	0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	<0.01, 0.02
小麦	0.05	0.05		0.05	0.2 Codex Cereal grains カナダ Wheat	
大麦	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	
ライ麦	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	
とうもろこし	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	
そば	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	
その他の穀類	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cereal grains 米国 Grain cereal	
大豆	0.05	0.05	○	0.05	1 Codex Soya bean (dry) カナダ Soybeans	<0.005, <0.005
小豆類	0.2	0.1	○		0.2* 米国 Vegetable legume	0.014, 0.025 (あずき) 【米国】 <0.05~0.06 (#) (n=5) (インゲン) 【米国】 <0.05~0.11 (#) (n=7)
えんどう	0.2	0.1			0.2* 米国 Vegetable legume	
そら豆		0.1			0.2 米国 Vegetable legume	
らつかせい	0.1	0.1		0.1	Codex Peanut 米国 Peanut	
その他の豆類	0.2	0.1			0.2* 米国 Vegetable legume	
ばれいしょ	0.3	0.3	○・甲	0.05	0.5* Codex Potato 米国 Potato	<0.05(#), 0.06(#), 0.11(#), 0.16(#)
さといも類 (やつがしらを含む)		0.5			0.5 米国 Vegetable root and tuber	0.01, 0.06
かんしょ		0.5			0.5 米国 Vegetable root and tuber	
やまいも (長いもをいう。)		0.5			0.5 米国 Vegetable root and tuber	
こんにやくいも	0.3	0.5	○		0.5 米国 Vegetable root and tuber	
てんさい	0.05	0.05		0.05	1 Codex Sugar beet カナダ Sugar beets	<0.01, <0.01
さとうきび	0.05	0.1	○			
だいこん類 (ラディッシュを含む) の根	0.2	2	○		0.5* 米国 Vegetable root and tuber	0.03, 0.05 【米国】 *0.23~0.57 (#) (n=3)
だいこん類 (ラディッシュを含む) の葉	0.2	2	○		0.5* 米国 Vegetable root and tuber	0.04, 0.05 【米国】 *1.4~13.3 (#) (n=3)
かぶ類の根	0.3	2	○		0.5 米国 Vegetable root and tuber	<0.1, <0.1
かぶ類の葉	0.3	2	○		0.5 米国 Vegetable root and tuber	<0.1, <0.1
西洋わさび	0.2	2	○		0.5 米国 Vegetable root and tuber	<0.02, 0.03 (わさびだいこん)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm	
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm		
クレソン	0.3	2	○・申		5	米国 vegetable leafy	0.020, 0.088
はくさい		2			0.3	豪州 Leafy vegetables	
キャベツ	0.5	0.5	○	0.5	2	Codex Cabbages head	0.02, 0.06
芽キャベツ	0.2	0.2		0.2	2	カナダ Cabbages Codex Brussels sprouts	
ケール	1	2	○		2	米国 Brussels sprouts	0.20, 0.44
こまつな		2			0.3	豪州 Leafy vegetables	
きょうな	3	2	○		0.1	米国 Vegetable brassica leafy	1.02, 0.40 (みずな)
チンゲンサイ	2	2	○		0.1	米国 Vegetable brassica leafy	0.52, 0.16
カリフラワー	0.5	0.5		0.5	0.1	米国 Vegetable brassica leafy Codex Cauliflower	
ブロッコリー	0.5	2	○	0.5	2	カナダ Cauliflower Codex Broccoli	<0.1, <0.01
その他のあぶらな科野菜	0.7	2	○		2	米国 Broccoli	0.26, 0.25 (ひろしまな)
					5	米国 Mustard green	
ごぼう	2	2		2	0.5	米国 Vegetable root and tuber	
サルシフィー		2			0.5	米国 Vegetable root and tuber	
アーティチョーク		2			0.5	米国 Vegetable root and tuber	
チコリ		2			1	EU Scarole	
エンダイブ		2			5	米国 Vegetable leafy	
しゅんぎく		2			5	カナダ Garland chrysanthemum	
レタス		2			5	Codex Lettuce head	
その他のきく科野菜		2			5	米国 Lettuce head 米国 Vegetable leafy	
たまねぎ	2	2	○・申	2		Codex Onion bulb	<0.01(#), <0.01(#)
ねぎ (リーキを含む)	0.2	2	○・申		3	米国 Onion blub	【EU】 <0.02 (n=4) 0.02(#), 0.03(#)
にんにく	0.5	2			0.5	EU Onions	
にら		2			10	米国 Onion green	【EU】 たまねぎ を参照
アスパラガス	0.05	0.05		0.05	0.5	EU Garlic	
わけぎ	0.2	2			7	Codex Asparagus	ねぎを参照 (EU) <0.1, <0.1 (らっきょう)
その他のゆり科野菜	0.3	2	○		10	米国 Asparagus 米国 Onion green	
					0.2	EU Spring onions (Welsh onions)	

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm	
にんじん	0.05	0.05		0.05		<0.01, <0.01
パースニップ		2			0.5 米国 Vegetable root and tuber	
パセリ	2	2	○		0.5 米国 Vegetable root and tuber	0.40, 0.56
セロリ		2			5 米国 Vegetable leafy	
みつば	2	2	○		5 米国 Vegetable leafy	0.74, <0.05
その他のせり科野菜	1	2	○		5 米国 Vegetable leafy	0.15, 0.34 (せり)
トマト	2	2	○・申	0.5	1 Codex Tomato 米国 Vegetables fruiting	0.20, 0.66 (ミニトマト)
ピーマン	2	2	○・申	1	1 Codex Peppers 米国 Vegetable fruiting	【米国】 <0.05~2.5 (#) (n=6) 0.38 (#), 0.05 (#), 0.31 (#), 0.60 (#)
なす	1	2	○・申	1	1 米国 Vegetable fruiting	0.20, 0.50
その他のなす科野菜	1	2		1	1 Codex Peppers 米国 Vegetable fruiting	0.08, 0.05
きゅうり (ガーキンを含む)	1	2	○・申	0.5	1 Codex Cucumber, Gherkin 米国 Vegetable cucurbit	0.20 (#), 0.50 (#), 0.16 (#), 0.39 (#)
かぼちや (スカッシュを含む)	0.2	2	○	0.2	1 Codex Squash summer, Winter squash 米国 Vegetable cucurbit	0.05, 0.03
しろうり		2				
すいか	0.2	0.2		0.2	1 Codex Watermelon 米国 Vegetable cucurbit	<0.01, 0.02
メロン類果実	0.7	1	○・申	0.2	1 米国 Vegetable cucurbit	0.23 (#), 0.01 (#)
まくわうり		0.2				
その他のうり科野菜		2			1 Codex Melons except watermelon 米国 Vegetable cucurbit	
ほうれんそう	2	2	○	2	10 Codex Spinach 米国 Spinach	<0.1, 0.32
たけのこ		2				
オクラ	1	2	○			0.10, 0.34
しょうが	1	2	○			0.30, 0.31
未成熟えんどう	0.2	0.05		0.05	0.5 米国 Vegetable root and tuber	
未成熟いんげん	0.2	2			0.2* Codex Peas shelled (succulent seeds) 米国 Vegetable legume	【米国】 <0.05~0.531 (#) (n=8)
えだまめ	0.2	2			0.2* 米国 Vegetable legume	【米国】 *0.52~0.86 (#) (n=4)
					0.2* 米国 Vegetable legume	【米国】 <0.05~0.11 (#) (n=6) <0.005 (#), <0.005 (#)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm	
マッシュルーム しいたけ その他のきのこ類		2 2 2				
その他の野菜	3	2	○		3* 米国 Genseng 5 米国 Vegetable leafy	【米国】 0.18~2.5 (n=13) (ジンセン) 0.26, 0.26 (うど)
みかん なつみかんの果実全体 レモン オレンジ (ネーブルオレンジを含む) グレープフルーツ ライム その他のかんきつ類果実	0.2 0.7 0.7 0.7 0.7 0.7	1 1 2 1 2 1 1	○		1 米国 Fruit citrus 0.5 EU Lemons 1 米国 Fruit citrus 0.5 EU Oranges 1 米国 Fruit citrus 0.5 EU Grapefruit 1 米国 Fruit citrus 0.5 EU Limes 1 米国 Fruit citrus 0.5 EU Mandarins, Citrus fruit others	0.04(#), 0.02(#) (暫定基準値の1ppmは、以前設定されていた登録 保留基準を参照したもの(類型3-1)) (カナダのCitrus fruitsは残留データはなく、 他の国からの輸入品に使用されうることに配慮し たものとされる。) 【EU】 0.08~0.41 (n=4) 【EU】 0.02~0.11 (n=4) 【EU】 レモン、オレンジ、マンダリンを参照 【EU】 レモン、オレンジ、マンダリンを参照 【EU】 マンダリン 0.08~0.17 (n=4)
りんご 日本なし 西洋なし マルメロ びわ	0.2 0.2 0.2 0.2 0.2	1 1 1 1 1			1 EU Apples 0.2 豪州 Pome fruits 1 EU Pears 0.2 豪州 Pome fruits 1 EU Pears 0.2 豪州 Pome fruits 1 EU Quinces 0.2 豪州 Pome fruits 1 EU Loquat 0.2 豪州 Pome fruits	【EU】 <0.02(#)(n=4) (#)EU基準値との開きを考慮 (暫定基準値は、以前設定されていた登録保留基 準を参照したもの(類型3-1)) 【EU】 りんごを参照 【EU】 りんごを参照 【EU】 りんごを参照 【EU】 りんごを参照

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ※)	
					ppm	
もも	0.2	1			1* 米国 Fruit stone 0.2 豪州 Stone fruits	【米国】 * <0.05~*0.90 (#) (n=4) (#) GAPの4~8倍の処理を考慮 【米国】 もも、アンズ、すもも、おうとうを参照 【米国】 * 0.49~0.82 (#) (n=2) (#) GAPの4~8倍の処理を考慮 【米国】 * 0.17~0.47 (#) (n=2) (#) GAPの4~8倍の処理を考慮 【米国】 <0.05~*0.35 (#) (n=7) (#) GAPの4~8倍の処理を考慮
ネクタリン	0.2	1			1* 米国 Fruit stone 0.2 豪州 Stone fruits	
あんず (アプリコットを含む)	0.2	1			1* 米国 Fruit stone 0.2 豪州 Stone fruits	
すもも (プルーンを含む)	0.2	1			1* 米国 Fruit stone 0.2 豪州 Stone fruits	
うめ		1				
おうとう (チェリーを含む)	0.2	1			1* 米国 Fruit stone 0.2 豪州 Stone fruits	
いちご	7	1	○		10* 米国 Strawberry	【米国】 0.93~4.5 (#) (n=8) 0.026, 0.146 【米国】 <0.05~1.63 (#) (n=13)
ラズベリー	0.2	0.2		0.2	2 Codex Raspberries red black NZ Berries and other small fruits	
ブラックベリー	0.2	1		0.2	2 Codex Raspberries red black NZ Berries and other small fruits	
ブルーベリー	2	1			2* 米国 Blueberry	
クランベリー		1			4 米国 Cranberry	
ハックルベリー		1			2 NZ Berries and other small fruits	
その他のベリー類	0.2	1		0.2	2 Codex Raspberries red black 米国 Lingonberry -M NZ Berries and other small fruits	
ぶどう	1	1	○	1	2 Codex Grapes 米国 Grape	
かき		1				
バナナ		1			0.1 米国 Kiwifruit -M	<0.05, <0.05
キウイ		1			0.1 米国 Papaya (emergency exemptions)	
パパイヤ		1			0.1 米国 Papaya -M	
アボカド	0.2	0.2		0.2	4 Codex Avocado 米国 Avocado	
パイナップル		1			0.1 米国 Pineapple	
グアバ		1				
マンゴー		1			0.4 米国 Mango -M	
パッションフルーツ	0.2	1	○			
なつめやし		1				
その他の果実		1			0.2 米国 Starfruit -M 0.4 Sapodilla -M	
ひまわりの種子	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Sunflower seed 米国 Sunflower seed	
ごまの種子		1				
べにばなの種子		1				
綿実	0.05	0.05		0.05	0.1 Codex Cotton seed 米国 Cotton undelinted seed	
なたね		1			0.1 カナダ Rapeseed (canola)	
その他のオイルシード		1				

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm	
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm		
ぎんなん くり ペカン アーモンド くるみ その他のナッツ類	0.4 0.4	1 1 1 1 1 1			0.5* 0.5* 1	米国 Almond 米国 Walnut 豪州 Macademia nuts	【米国】 <0.05~0.88 (#) (n=6) 【米国】 <0.05~0.13 (#) (n=6)
茶 コーヒー豆 カカオ豆 ホップ	0.2 10	0.1 0.2 10	○	0.2 10	0.1 20	EU Tea Codex Cacao beans Codex Hops dry 米国 Hop dried cones	1.0, 0.6
その他のスパイス (種子を除く) その他のハーブ	5 2	2 2	○ ○・申		0.5 0.1 8	米国 Vegetable root and tuber カナダ Mustard seeds 米国 Herbs fresh -M	1.26 (#), 1.66 (#) (みかん果皮) 0.64 (#), 0.35 (みょうが)
牛の筋肉 豚の筋肉 その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉 牛の脂肪 豚の脂肪 その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪 牛の肝臓 豚の肝臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓 牛の腎臓 豚の腎臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓 牛の食用部分 豚の食用部分 その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分 乳	0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.1 0.1 0.1 0.3 0.3 0.3 0.02 0.02 0.02	0.2 0.2 0.2 0.4 0.5 0.4 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.3 0.2 0.2 0.2 0.03			0.05** 0.05** 0.05** 0.4 0.05** 0.4 0.05** 0.4 0.05** 0.4 0.3** 0.4 0.3** 0.4 0.3** 0.4 0.3** 0.4 0.85** 0.4 0.85** 0.4 0.85** 0.05** 0.05** 0.05* 0.02 0.01**	カナダ Meat of cattle カナダ Meat of hogs カナダ Meat of goats, horses, sheep 米国 Cattle fat カナダ Fat of cattle 米国 Hog fat カナダ Fat of hogs 米国 Goat, Horse, Sheep fat カナダ Fat of goats, horses, sheep 米国 Cattle liver カナダ Liver of cattle 米国 Hog liver カナダ Liver of hogs 米国 Goat, Horse, Sheep liver カナダ Liver of goats, horses, sheep カナダ Kidney of cattle 米国 Hog kidney カナダ Kidney of hogs 米国 Goat, Horse, Sheep kidney カナダ Kidney of goats, horses, sheep カナダ Meat byproducts of cattle カナダ Meat byproducts of hogs カナダ Meat byproducts of goats, horses, sheep 米国 Milk カナダ Milk	カナダの基準値は 米国で実施された試験成績を 基に評価がされたものとされる。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		残留試験成績 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ※) ppm	
鶏の筋肉	0.01	0.2			0.05** カナダ Meat of poultry	
その他の家きんの筋肉	0.01	0.2			0.05** カナダ Meat of poultry	
鶏の脂肪	0.01	0.5			0.4 米国 Poultry fat	
その他の家きんの脂肪	0.01	0.5			0.05** カナダ Fat of poultry	
鶏の肝臓	0.06	0.3			0.4 米国 Poultry liver	
その他の家きんの肝臓	0.06	0.3			0.3** カナダ Liver of poultry	
鶏の腎臓	0.2	0.3			0.4 米国 Poultry kidney	
その他の家きんの腎臓	0.2	0.3			0.7** カナダ Kidney of poultry	
鶏の食用部分	0.01	0.2			0.4 米国 Poultry kidney	
その他の家きんの食用部分	0.01	0.2			0.7** カナダ Kidney of poultry	
鶏の卵	0.01	0.05			0.05** カナダ Meat byproducts of poultry	
その他の家きんの卵	0.01	0.05			0.05** カナダ Meat byproducts of poultry	
乾燥させたその他のスパイス（種子に限る。）	5	5		5	0.05** カナダ Eggs	
					0.05** カナダ Eggs	
					Codex Spice seeds	

平成17年11月29日 厚生労働省公示第499号において設定された基準値については、網を付けて示した。

(#) これらの作物残留試験は、適用範囲内で行われていない。

外国基準値欄は、定量限界以外の基準値を記載している。「～M」と記載した食品は、メタラキシルMの基準値であることを示す。

○ 作物残留試験の分析対象

JMPR及びEUでは D-鏡像異性体のメタラキシルMを対象とし、米国及びカナダでは メタラキシル及びメタラキシルM並びにその代謝物をまとめて加水分解し、2,6-ジメチルアニリンを生成させ、その総量をメタラキシル又はメタラキシルMの残留値としている。豪州では ラセミ体のメタラキシルを分析対象としている。

*印は、基準値を設定する際に、米国又はカナダの基準を参照した箇所で、代謝物が含まれている。

* 農産物では、植物体内運命試験成績から、親化合物と2,6-DMAに変換されると推測される代謝物の合計に対する親化合物の推定最大割合の1/1.5≒0.7を換算係数として乗じ、一律基準を超える農産物について、下2桁目を切り上げて基準値を設定した。

** 畜産物では、親化合物と2,6-DMAに変換されると推測される代謝物の合計に対する 親化合物と代謝物Dの推定最大割合と推定される0.2～0.3の係数（家畜0.3、家きん0.2）をカナダの基準値に乘じ、一律基準を超える畜産物について、端数を切り上げて基準値を設定した。

(別紙3)

メタラキシル及びメタラキシルM推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米	0.1	18.5	9.8	14.0	18.9
小麦	0.05	5.8	4.1	6.2	4.2
大麦	0.05	0.3	0.0	0.0	0.2
ライ麦	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.1	0.2	0.1	0.0
そば	0.05	0.2	0.0	0.1	0.2
その他の穀類	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.05	2.8	1.7	2.3	2.9
小豆類 *	0.2	0.3	0.1	0.0	0.5
えんどう *	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1
らっかせい	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
その他の豆類 *	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしよ	0.3	11.0	6.4	11.9	8.1
こんにやくいも	0.3	3.9	1.7	3.3	4.0
てんさい	0.05	0.2	0.2	0.2	0.2
さとうきび	0.05	0.7	0.6	0.5	0.6
だいこん類 (ラディッシュを含む) の根	0.2	9.0	3.7	5.7	11.7
だいこん類 (ラディッシュを含む) の葉	0.2	0.4	0.1	0.2	0.7
かぶ類の根	0.3	0.8	0.2	0.2	1.3
かぶ類の葉	0.3	0.2	0.0	0.1	0.3
西洋わさび	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.3	8.8	3.1	6.6	9.5
キャベツ	0.5	11.4	4.9	11.5	10.0
芽キャベツ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
こまつな	1	4.3	2.0	1.6	5.9
きょうな	3	0.9	0.3	0.3	0.9
チンゲンサイ	2	2.8	0.6	2.0	3.8
カリフラワー	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
ブロッコリー	0.5	2.3	1.4	2.4	2.1
その他のあぶらな科野菜	0.7	1.5	0.2	0.1	2.2
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む)	2	12.2	5.0	12.8	8.4
たまねぎ	2	60.6	37.0	66.2	45.2
ねぎ (リーキを含む)	0.2	2.3	0.9	1.6	2.7
にんにく	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
アスパラガス	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
わけぎ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1
その他のゆり科野菜	0.3	0.3	0.0	0.0	0.5
にんじん	0.05	1.2	0.8	1.3	1.1
パセリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
みつば	2	0.4	0.2	0.2	0.4
その他のせり科野菜	1	0.1	0.1	0.1	0.3
トマト	2	48.6	33.8	49.0	37.8
ピーマン	2	8.8	4.0	3.8	7.4
なす	1	4.0	0.9	3.3	5.7
その他のなす科野菜	1	0.2	0.1	0.1	0.3
きゅうり (ガーキンを含む)	1	16.3	8.2	10.1	16.6
かぼちや (スカッシュを含む)	0.2	1.9	1.2	1.4	2.3
すいか	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン類果実	0.7	0.3	0.2	0.07	0.2
ほうれんそう	2	37.4	20.2	34.8	43.4
オクラ	1	0.3	0.2	0.2	0.3
しょうが	1	0.6	0.2	0.7	0.7
未成熟えんどう *	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1
未成熟いんげん *	0.2	0.4	0.2	0.4	0.4
えだまめ *	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の野菜 *	3	37.8	29.1	28.8	36.6
みかん	0.2	8.3	7.1	9.2	8.5
レモン	0.7	0.2	0.1	0.2	0.2
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	0.7	0.3	0.4	0.6	0.1
グレープフルーツ	0.7	0.8	0.3	1.5	0.6
ライム	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	0.7	0.3	0.1	0.1	0.4
りんご	0.2	7.1	7.2	6.0	7.1
日本なし	0.2	1.0	0.9	1.1	1.0
西洋なし	0.2	0.02	0.02	0.02	0.02
マルメロ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
びわ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
もも *	0.2	0.1	0.1	0.8	0.0
ネクタリン *	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
アンズ (アプリコットを含む) *	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
すもも (プルーンを含む) *	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0
おうとう (チェリーを含む) *	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
いちご *	7	2.1	2.8	0.7	0.7
ラズベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー *	2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他のベリー類果実	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	1	5.8	4.4	1.6	3.8
アボカド	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
パッションフルーツ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ひまわりの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
綿実	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド *	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ *	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
カカオ豆	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
ホップ	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス (乾燥させたその他のスパイス)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のハーブ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
陸棲哺乳類の肉類 **	0.3	17.3	9.9	18.2	17.3
家禽の肉類 **	0.2	4.0	3.7	3.2	4.0
家禽の卵類 **	0.01	0.4	0.3	0.4	0.4
計		370.8	223.9	330.8	346.1
ADI比 (%)		31.6	64.4	27.0	29.0

高齢者及び妊婦については魚介類の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。
TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

*印を付した農産物は、暴露量を推計する際に、米国又はカナダの基準値又は残留値を参照した箇所であり、代謝物が含まれているため、親化合物換算を行ったことを示す。

**印の畜産物については、代謝物を含む基準設定としている。

(参考)

これまでの経緯

昭和59年	2月	3日	メタラキシル(ラセミ体制剤)初回農薬登録
平成17年	11月	29日	残留農薬基準告示
平成19年	5月	10日	農林水産省から厚生労働省へメタラキシルMの農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼(新規:ピーマン等)
平成19年	5月	22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成19年	5月	24日	食品安全委員会(要項事項説明)
平成20年	6月	9日	第16回農薬専門調査会確認評価第一部会
平成20年	12月	9日	第46回農薬専門調査会幹事会
平成21年	1月	29日	食品安全委員会における食品健康影響評価(案)の公表
平成21年	3月	5日	食品安全委員会(報告)
平成21年	3月	5日	食品安全委員会から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年	8月	11日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成21年	9月	25日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
生方 公子	北里大学北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室教授
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
志賀 正和	元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生生活科学部食生活科学科教授
松田 りえ子	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授
由田 克士	国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○: 部会長)